

事業概要【未来に咲きほこる「北竜ひまわり商社」（仮称）構築プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道北竜町	初回採択回	令和4年度第1回募集	
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	395,734千円 (77,900千円)	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野	
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり観光拠点や産直施設の収益性向上を図る ・ひまわり開花時期以外の来訪者や増加させ、町内消費を拡大させる。 ・新たな仕事の切り出し等を行い、雇用機会の拡大を図る 			
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 町の強みである「安全な食料生産体制」「ひまわり観光」等の地域資源の磨き上げ等を行い、観光や産直施設の収益性向上を目指すとともに、ひまわり観光期間以外の来訪者や町内消費を拡大させる事業を実施する。</p> <p>【主な経費】 みんなで創り・育てる「地域商社」事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひまわり時間」（仮称）体制整備・支援 2,000千円 ・プロモーション展開 3,400千円 ・イベント開催 4,700千円 ・ひまわりの里誘客受入管理運営 38,00千円 ・ひまわりの里周辺エリアの機能や整備のあり方等基本計画 7,500千円 ・サンフラワーパーク北竜温泉魅力充実 2,000千円 ・買い物支援等のしくみ構築 7,500千円 <p>「外貨獲得×しごとづくり」のためのフィールド整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ひまわりライス」の販売拡大 4,000千円 ・農産物を活用した特産品製造等 4,500千円 ・「ひまわり時間」（仮称）機能の企画・運営 4,500千円 			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①地域商社（サンフラワーパーク北竜温泉関係）の売上高…（+325,000千円） ②地域商社の活動を通じた新規就労者数…（+200人） ③観光入込客数…（+361.5千人） ④新規商品・サービス開発数…（+27件） 		関連URL	http://www.town.hokuryu.hokkaido.jp/

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【「ひまわりホールディングス」で目指す未来につながるまちづくりプロジェクト】

申請者	北海道北竜町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R10年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	7,704,334千円 (2,056,449千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野 まちづくり分野

目的・効果

- ・コンパクトタウン・プラス・ネットワークと、町全体を一つの経営体に見立てた「北竜ひまわりホールディングス」の構築により、ハード・ソフト両面からの一体的な「3つの集約化」と、デジタル地域社会の形成を徹底的に進めることで、人口が減っても、誰もが住みつけられる「ひまわり暮らし」ができる町を実現する。
- ・主体的で共創的な地域や町外とつながって学ぶ教育・子育てにより、小規模自治体だからこそできる付加価値労働生産性の高い子ども達を育て、親自身も満足な所得を得て自分らしく働き、子育てできる、楽しい「ひまわり暮らし」をしたいと感じる若者や女性から選ばれる町を目指す。
- ・「ひまわり暮らし」や「ひまわりホールディングス」をコアとした北竜町のブランドを確立し、一貫したプロモーションや交流人口及び関係人口の受入体制・環境の整備、交流人口を関係人口化するプログラム等を行い、関係人口の創出・拡大・深化、転出者の減少、移住者の増加を目指す。

事業概要・主な経費
※経費内訳はR7年度事業費

【事業概要】
コンパクト・プラス・ネットワークと運営体制の集約により、住み続けられる町を実現し、独自の子育て・教育、町のブランド確立により、共にまちづくりを行う関係人口を創出・拡大する。

【ソフト事業経費】

- 都市構造を見直し、居住誘導策等を行いながらコンパクトタウンを推進する。
- ・まちなか活性化・コンパクトタウン推進事業 132,011千円
- 公共ライドシェアや共助を軸とした地域公共交通を確立する。
- ・地域基幹交通システム構築事業 147,378千円
- 2つの地域再生推進法人を核として「ひまわりホールディングス」を構築し、町民と関係人口の協働によるまちづくりを進める。
- ・まちづくり人材確保・育成事業 64,449千円
- まちづくりをテーマとした課題解決型学習や、自身の価値観を大切にしたい子育てが可能な支援サービスの充実、子ども達の居場所づくり等に取り組む。
- ・子どもの学びと成長促進事業 210,903千円
- 町のブランドを確立し、ブランドマネジメントに基づいたプロモーションを展開する。
- ・ブランドマネジメント・実践事業 99,792千円

【拠点整備事業経費】

- 交流人口増加、関係人口創出・拡大・深化のための観光交流センターの整備
- ・観光交流センター実施設計 20,217千円
- コンパクトタウン推進と関係人口・移住者受入のための住まいの整備
- ・移住定住促進住宅実施設計及び新築工事 103,587千円



地域の多様な主体の参画

町内事業者や多世代の町民、さらには町外からの関係人口や、専門的な企業・高度人材が、北竜ひまわりホールディングスが担う各種の取組や、新たなサービス・商品・事業の企画・提供・販売・実施・運営などに協働で取り組む。

町内小中高生や道内外の大学生の発想や視点、アイデアを取り入れることで若者や女性に選ばれるまち、楽しいと思える「ひまわり暮らし」を実現していくための事業や取組の手法、仕組みに反映させていく。

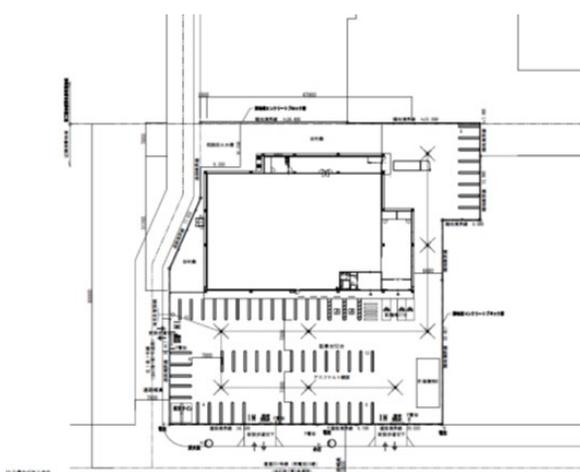
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ① 中心市街地エリアに新たに居住した人 (+161人) ② 新たに構築する地域交通システムの利用者数 (+67,283延人) ③ 「ひまわりホールディングス」で活動する人 (+214人) ④ 顔が見える関係性を構築し北竜町内で活躍する町外者の人数 (+2,444人) ⑤ 新たに開発された商品やサービスの数 (+254件) ⑥ 新たに増加した世帯数 (+164世帯)
---	--

事業概要【オール鷹栖による持続可能な地域づくり拠点形成事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道鷹栖町	初回採択回	令和5年度第1回募集	
事業計画期間	R5-R9年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	62,671千円（19,850千円）	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野	
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域社会で地方創生を担う人材育成と、地域の課題を自ら解決していく仕組みづくりを図る。 ■ 暮らしを支える小さな拠点を形成していく住民の参画力を最大限に発揮する仕組みづくりを図る。 ■ 小さな拠点と多様な主体とが、複層的に連携を図って地方創生を進めていくために、民間活力や広域連携、関係人口との関りを、積極的に推進する地域づくりを実現する。 			
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】</p> <p>小さな拠点ごとに地域の課題を自ら解決していくため、リーダー人材の育成確保、域外人材との共創による課題解決メソッドの定着、自主防災や生活支援機能の強化、コミュニティビジネスの創出等に取り組む。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 小さな拠点における地域課題解決の取組み推進 課題解決の活動実践（補助金） 5,500千円 ■ 2. デジタル活用や広域連携、多様な主体との協働で実現する小さな拠点の魅力の向上 健康プログラム構築 3,650千円 ■ 3. 関係人口が継続的に関わる拠点づくり 課題解決の活動実践（補助金） 1,860千円 ■ 4. 多様な連携と民間力の活用で推進するゼロカーボン拠点の実現 推進イベント実施（委託） 1,040千円 			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ① 人口の社会動態における転出入の差（+55人） ② 小さな拠点を単位として住民主体で新たに事業化された課題解決の取組み（+20事業） ③ 事業を通して新たに生じたコミュニティビジネス（+7件） ④ 小さな拠点の事業運営に関わった関係人口の延べ人数（+200人） 		関連URL https://www.town.takasu.hokkaido.jp/gyosei/administration/detail.html?content=983	
<small>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</small>				

事業概要【鷹栖町商業拠点施設整備事業】

申請者	北海道鷹栖町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	387,630千円 (358,774千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野 まちづくり分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に不可欠なサービスである買い物拠点施設の整備を行い、買い物弱者対策を行う。 特産品販売、観光案内コミュニティスペースの整備を行い、これまで課題となっていた地場製品の販売場所の確立を行う。それにより、生産者にとっては新たな販路となり、消費拡大により外貨を獲得するとともに地域ブランドの認知度を高める。 					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 日常生活に不可欠なサービスである買い物拠点施設の整備を行い、併せて、農産物や特産品の販売スペースと観光情報などの発信機能を施設内に設け、一体的な集客・プロモーションを行うことで施設の持続可能な運営・自立を目指す。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○地場製品の販売促進、ブランド力の向上推進事業 ・地場製品の販売促進、ブランド力向上に向けたプロモーション活動経費（消耗品、役務費、委託料、使用料、委託料）5,428千円 ・生産者と消費者をつなぐマネージャーの配置（マネージャー業務の委託）5,000千円</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○買い物拠点施設及び特産品販売、観光案内コミュニティスペース整備 ・施設整備 336,226千円 ・備品整備 12,120千円</p>					
地域の多様な 主体の参画	<p>拠点施設の指定管理者が、利用者の増加や地域住民の関係性構築につながるイベント等を開催する。</p> <p>連携協定を締結している金融機関が、商工業全体へアドバイスをを行う。</p> <p>地域運営組織と連携し、利用者目線での施設等の利活用に関する意見について、事業内容への反映に取り組む。</p>				<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①施設整備をする地区の世帯数（+10世帯） ②施設の年間利用者数（+82,800人） ③施設の年間売上高（+165,600千円）

事業概要【官民連携の新たなタウンプロモーションによる地方創生人材の確保育成事業】

申請者	北海道鷹栖町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	98,950千円 (30,750千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 官民連携による新たなタウンプロモーションの構築と推進を通して、特に若者や女性をターゲットとした人の流れを創出し、地域で活躍する人材を確保、育成する。 関係人口や若者交流を促進し、女性や若者が活躍できる場づくりを進めることで、地域の課題解決力の向上を図る。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 民間人材や外部人材との連携によって進める新たなタウンプロモーションを構築し多様な主体の連携によって推進しながら、創出した人の流れを地域の強みである農業、農村資源に結び付けることによって、地域の稼ぐ力と可能性を向上させる人材の確保と育成、若者交流や関係人口などの多様な関わりを地域課題解決へと巻き込んでいく取り組みの推進を、デジタル技術を活用しながら進めていく。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ol style="list-style-type: none"> 官民連携の新たなタウンプロモーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> タウンプロモーション構築のための調査研究（委託料）17,500千円 農業、農村の地域資源を地域活性化へと生かす地域創生人材の確保と育成 <ul style="list-style-type: none"> 農業分野人材の確保、育成（臨時的人件費）11,000千円 先端技術の調査研究（消耗品、負担金等）2,250千円 地域資源を最大活用する関係人口や若者交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト推進体制の構築（経費なし） 						
地域の多様な 主体の参画	<p>民間の複業人材と官民連携プロジェクトチームを構成し、タウンプロモーション戦略を新規に構築する。</p> <p>大学や工業高等専門学校、農業協同組合と連携し、地域の郷土資源を魅力向上に生かしていく仕組みづくり、産業活性化を担う人材の確保育成や先端技術の研究を進める。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ol style="list-style-type: none"> 転入者数（+615人） 農業研修施設を修了して新規に就農した人数（+6人） 女性または40歳以下の地域おこし協力隊員採用人数（+9人） 移住者、関係人口の関わりから新たに生まれた事業（+5件） 地域の課題解決に関わりを持った関係人口の延べ人数（+120人）

事業概要【世界一大雪山がきれに見えるまちPR事業】

申請者	北海道比布町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	11,566千円 (3,746千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 「世界一大雪山がきれに見えるまち」を前面に出し、景観スポットの整備及びPRを行うことで、特産品販売促進や観光客誘致につなげる。 積極的なトップセールスを行うことで、特産品販売促進や観光客誘致を図る。 コワーキングスペースやマッチングイベントへの開催、参加の拠点を確保することで、スポットではなく、腰を据えたPR活動が可能となる。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「世界一大雪山がきれに見えるまち」を前面に出した景観スポットの整備 SNSと併用した積極的なトップセールスの実施 コワーキングスペースやマッチングイベントへの開催、参加の拠点確保 地域の強みを活かした特産品開発促進 <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界一大雪山がきれに見えるまち環境整備事業 管理消耗品271千円 景観スポット管理委託料660千円 ○道外拠点確保及びトップセールス推進事業 トップセールスにかかる旅費 1,465千円 特産品開発補助金 800千円 委託料 道外拠点確保 550千円 					<p>・PR用各種グランプリ ・景観スポット管理事業</p> <p>・イベント開催 ・マッチング ・コワーキングスペース</p>	
地域の多様な 主体の参画	商工会および農協と連携した商品開発、販路拡大、企業誘致への取り組み。 連携大学の協力によるPR、内容改善の実施。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①地域観光消費額 (+30,000千円) ②トップセールスによる販路拡大数 (+10件) ③拠点を活用したイベントによる各種マッチング (+5件) ④「世界一大雪山がきれに見えるまち」をキーワードとしたSNS発信数 (+100件)

事業概要【育って良かったと思える町シビックプライド醸成事業】

申請者	北海道比布町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	22,719千円 (7,239千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<p>・子どもたちと地域事業者との密な連携、さまざまなキャリア（経験）事業の展開を通じて、この町で「育って良かった」と思う子どもを増やし（シビックプライドの醸成）、本町ならではの子どもたちを中心とした、この地域に誇りを持てるまちづくり、将来的にこの町で「自分の子どもを育てたい」という思いを醸成し、比布町出身者や比布町にゆかりのある人たち、これから関係をつくる人たちとのかわりの仕組み・仕掛けを構築し、子育て世代の維持・流入及びUターンにつなげる。</p>						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 <検討会議等の設置> ・シビックブランドの醸成に向けたブランディングの検討会議の実施 <社会実践事業の検討・実施> ・地域事業者と連携した社会実践教育の検討・実施。様々な分野のプロから、講話や技術指導などを受け、一流の姿に触れる機会の提供。 <専門人材の配置> ・上記取組の事業の司令塔として、キャリア事業専門家を配置し、域内関係者、及び域外専門家等の連携、また取組の発信に取り組む。</p> <p>【ソフト事業経費】 ・キャリア事業専門員配置（会計年度任用職員）：3,749千円 ・シビックプライドの醸成を目的としたキャリア事業経費 ・前期課程向け：講師謝礼 140千円 ・前後期課程向け：一流の技術に触れるキャリア事業 実施団体への交付金：1,550千円（ゲストへの謝礼・交通費分） ・後期課程・高校生向け：大学生との交流事業 1,800千円</p>					<pre> graph LR A[専門員] --> B[キャリア事業] B --> C[シビックプライドの醸成] C --> D[Uターン 移住・定住] </pre>	
地域の多様な 主体の参画	<p>役場、学校、地域関係者が参画するブランディング検討会議を実施、PDCDサイクルを活かしたブラッシュアップを行っていく。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①Uターン者数（+25人） ②1学年の児童生徒数平均（+2人） ③アンケート調査における 各種事業の満足度およびこの町で育って良かったと思う児童生徒の割合（+95%） ④後期課程・高校生向け事業のアンケート調査における満足度（+95%） ⑤SNSフォロワー数（+300人） ⑥社会実践教育プログラム実践数（+4件）

事業概要

【交流×関係×定住による持続可能な地域経済・暮らしの構築～ニューノーマルを切り拓くローカルイノベーション推進プロジェクト～】

申請者	北海道上川町	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	581,460千円（93,500千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	<p>・関係人口創出のために、都市部の住民や企業と、当町とをつなぐ独自の仕組みやコンテンツ、情報発信機能を備えたプラットフォームの構築や、いつ来ても地域と関わることができる機会や場所を充実させていくことで、移住先・旅行先・関係先候補としての選択優位性も高め、都市部からの流入や関係性を促進することで、当町への転入者増加や地域内の経済活性化、雇用創出、新規創業などに波及させていくものとする。</p>		
事業概要・ 主な経費	<p>○ニューノーマルを見据えた各種調査分析、計画策定、外部有識者アドバイス体制構築等の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者による事業支援体制の構築・運用2,200千円 <p>○プロモーションや相談・受入体制構築、また、そのIT化の推進や中核法人育成の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション業務、ITを活用した関係人口創出システムの構築・運用39,930千円 ・ワンストップ総合的相談窓口・交流スペースの運営10,560千円 <p>○地域クリエイティブ人材等の確保育成、都市部住民・企業等との交流・関係性継続の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブ人材・ビジネス人材育成講座・子供向け学びのプログラムなどの企画運営22,000千円 ・ワーケーション等実証企画立案・実証試験8,800千円 ・関係人口創出のための滞在体験商品・特産品開発の開発・実証、参加型地方創生プロジェクトの企画運営7,700千円 ・都市圏での関係人口創出コーディネーターの配置ほか2,310千円 		
KPI	<ol style="list-style-type: none"> ①本事業を通じたワーケーション、インターンシップなど関係人口の受入人数（+1,000人） ②関係人口創出を業務領域とする新しいビジネスの創業数（+8件） ③当町への年間転入者の数（+40人） ④ふるさと納税応援寄付額（+45,000千円） 		<p>（交付金の具体的使途・実施体制）</p> <p>https://newspicks.com/news/10454211/body/ （効果検証）</p> <p>https://www.town.hokkaido-kamikawa.lg.jp/section/chiikimiryoku/sogosenryak/uhyoka.html</p>
※経費内訳はR7年度事業費	<p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>		
関連URL	<p>（交付金の具体的使途・実施体制）</p> <p>https://newspicks.com/news/10454211/body/ （効果検証）</p> <p>https://www.town.hokkaido-kamikawa.lg.jp/section/chiikimiryoku/sogosenryak/uhyoka.html</p>		

事業概要【「適疎ワーキング」による企業等との関係人口創出・拡大事業】 旧制度（推進）

申請者	北海道東川町	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	700,000千円（140,000千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・過密を回避し適疎な環境で、都市部と東川町の二地域や東川町内で暮らし働く、東川町「適疎ワーキング」を、町全域で推進する。 ・「にんにく一番プロジェクト」として、どこでも、誰でも、いつでも「フリーアドレス施設」の利用可能デスクを、2,291（本町所在北海道最高峰旭岳の標高）を目指し環境整備、一元的な情報提供を行う。 ・「株主制度」「オフィシャルパートナー制度」等の独自の関係人材や資金を活用するための仕組みを構築、活用した、固有の関係人口、人材活用型イノベーションを地域文化、景観を活用し創出する。 		
事業概要・ 主な経費	<p>1. 「適疎ワーキング」システム構築等事業 40,854千円 ○町全域での「適疎ワーキング」が可能な体制の推進、環境整備 ○町内まるごと「フリーアドレス施設」とする「にんにく1番プロジェクト」</p> <p>2. 「適疎ワーキング」発イノベーション創出事業 35,101千円 ○地域内循環型ビジネスの創出 ○東川オフィシャルパートナーとの事業創出支援 ○都市と地方連携型の新たなワーク・ライフ・スタイル創出</p> <p>3. 民間企業等との対流促進事業 24,783千円 ○外部人材や資金を活用した、関係企業との関係人口の創出 ○企業と東川とのつながりによる人材活用型イノベーションの創出</p> <p>4. 関係人口拡大プロモーション等事業 39,262千円 ○「適疎ワーキング」連携企業との関係人口化に向けたプロモーション ○「写真の町」事業、文化や景観を活用した地域資源の振興</p>		
※経費内訳はR7年度事業費	<p>適疎ワーキングシステム構築事業イメージ</p>		
KPI	<p>①本事業の実施により東川町内に与える増加消費額及び経済波及効果額（+462,083千円）</p> <p>②「町内フリーアドレス型ワークシステム」利用者数（+50,400延人）</p> <p>③年間起業者数（+50件）</p> <p>④「オフィシャルパートナー」協定締結企業・「企業版ふるさと納税」寄附企業・「地域おこし企業人」受入れ企業数（+30延件）</p>	関連URL	https://higashikawa-town.jp/
※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値			

事業概要【東川版「学生関係人口」構築プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道東川町	初回採択回	令和3年度第2回募集	
事業計画期間	R3-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	569,822千円（97,680千円）	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野	
目的（効果）	<p>学生を「未来の地方創生人材」と捉え、継続的な関係構築や、人材育成、活躍の場創出により、関係人口増やUIターンを促し、人口増の維持、地域内経済循環、担い手確保、コミュニティ形成や若者の地域参画など、学生を軸とした本町の好循環を実現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町の魅力発信、現地受入のための相談や受付などを行う学生受入体制構築 ・人数分散型やオンライン等によるポストコロナを見据えた人材育成プログラムの開発や学生に対する提供 ・地元インターンの受入や、本町と共に地域課題解決等の事業を学生と連携して実施 			
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 地元の学生や都市部の学生、海外の留学生等の学生人材とポストコロナの関係づくりに取り組み、継続的に学生が本町とつながりながら、地域の歴史や伝統文化、資源・人材と関わりを持ち、地域の振興や課題解決等の実践といったプロセスを経て、地域に根差した人材育成を図ることで、関係人口増やUIターンを促し、地域の担い手として育てる取り組みを実施する。</p> <p>【ソフト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①東川町とつながる 学生人材育成体制構築事業 25,850千円 ②東川町を知り学ぶ 学生人材育成プログラム研究開発・推進事業 32,670千円 ③東川町で実践する 地元インターン・課題解決等実践事業 39,160千円 		<p style="text-align: center;">東川版「学生関係人口」構築プロジェクト</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>国内外の学生人材</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>北海道 東川町 -写真の町- 写真文化首都</p> </div> </div> <p>国内外の学生との関係構築や、人材育成、活躍の場創出 【①東川とつながる ②東川を知り学ぶ ③東川で実践する】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>学生との関係構築による人口増、経済循環、担い手確保、コミュニティ形成、若者地域参画など 学生を軸とした好循環の実現</p>	
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①本事業の実施により東川町内に与える増加消費額及び経済波及効果額（+1,158,075千円） ②学生人材育成プログラム参加数（+34,273延人） ③若者転入者数（+239人） ④若者地元雇用・起業者数（+85件） 		関連URL	https://higashikawa-town.jp/

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【子どもをまんなかにつながる「東川スタンス」拡大プロジェクト】 旧制度（推進）

申請者	北海道東川町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	217,800千円 (79,398千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・東川町で子どもをまんなかに分らしい豊かな暮らしを望む人の移住定住による人口の維持増加 ・若い世代が安心して暮らし、希望する人が子を産み育てていける町づくりによる出生数増加 ・ワークライフバランスに配慮した女性が子育てをしながら働ける環境整備による町民所得額増加 ・子どもや若者との交流による高齢者の健康寿命の延伸 ・地域で子どもを育てる取り組みによる地域コミュニティ機能の向上と地域プライドの醸成、Uターン促進 		
事業概要・ 主な経費	<p>○子どもの心とからだ豊かになる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものテーマ型コミュニティ創出・拡大事業 10,087千円 ・子ども健やか成長促進事業 6,160千円 <p>○パパやママが楽しく子育てしながら働ける事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい子育て環境づくり事業 8,613千円 ・女性活躍・ワーク・イン・ライフ推進事業 6,820千円 <p>○おじいちゃんおばあちゃんが元気になる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯現役・活躍フィールド提供事業 6,270千円 ・健康づくり・安心生活推進事業 10,208千円 <p>○地域のみんなが明るくつながり誇りがもてる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流・共生促進事業 7,051千円 ・地域のまんなか子ども居場所づくり事業 8,030千円 <p>○若い世代が子どもと暮らす未来に希望が持てる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「若い世代が希望が持てるhigashikawa」構築事業 8,536千円 ・「出生率upのためのkeyプロジェクト」推進事業 7,623千円 		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の人口 (+120人) ②年間の出生数 (+27人) ③町民の一人当たりの平均所得額 (+350千円) ④要介護(要支援)認定者の出現率 (▲2.1%) <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	関連URL	https://higashikawa-town.jp/



事業概要【ものづくりの力でヒト・モノ循環「東川MADEプロジェクト」】

申請者	北海道東川町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	581,420千円 (188,890千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	<p>木工家具産業の需要拡大、原材料安定供給・収益性の向上、さらには担い手の確保により、家具産地が直面する課題を解決し、木工家具事業者の従事者数の増加、移住者の増加、家具を軸とした新たな町内の経済効果を促進。これら伝統的なものづくりの力を活性化させ、「ヒト」と「モノ」の循環により、持続可能なものづくり産業を形成する取組＝「東川MADEプロジェクト」により、「ものづくりをするなら東川町」というブランドイメージを確立し、地域の稼ぐ力を高め、町内の新たな雇用を創出し、ものづくり人材のUITターンによる人口増加、関係人口の創出や拡大、町内経済循環といった好循環を実現する。</p>						
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 町内家具事業者を中心に新たな組織を立ち上げ、地域資源を活用した新素材や製品開発、デジタル技術による効率化・収益性向上に取り組む。販路拡大や産地ブランド強化を図るとともに、若年層への教育や人材育成体制を整備し、持続可能なものづくりと担い手確保を推進する。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○家具産地の国内外認知向上と輸出を含む市場開拓等による新たな需要拡大 103,180千円 ○デジタル技術や地元資源を活用した新たなものづくり推進による原材料安定供給と収益性向上 35,130千円 ○ものづくり人材の発掘や育成による担い手確保 50,580千円</p>						
KPI	<p>①木工家具の販売増加額（+408,000千円） ②新商品開発や製造効率化による収益性改善事業者数（+23者） ③ものづくり人材の育成人数（+280人） ④木工家具事業従事者増加数（+32人） ⑤木工従事者の移住者数（+25人） ⑥町内に与える増加消費額及び経済波及効果額（+272,277千円）</p>					関連URL	（交付金の使途・実施体制・効果検証） https://higashikawa-town.jp/
※経費内訳はR7年度事業費	<p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>						

事業概要【関係人口の創出・拡大からひと・しごとを呼び込む循環づくり事業】

申請者	北海道美瑛町	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	138,965千円 (20,905千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的 (効果)	関係人口の創出・拡大による新たな人の流れをつくとともに地域産業の活性化による雇用の場の創出を目指す。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 移住等のイベントや地場産業の活性化を通じて、交流人口でない関係人口の創出・拡大を図る。</p> <p>【主な経費】</p> <p>○関係人口の創出・拡大 ・企業・大学等との協働によるシティプロモーション (1,840千円)</p> <p>○関係人口を地域につなげる取り組み ・カーシェアサービスの実証導入 (2,410千円) ・関係人口交流イベントの実施・出展 (1,968千円) ・移住相談者情報の一元管理 (658千円)</p> <p>○地域産業の活性化に向けた取り組み ・電子地域通貨事業の運用開始 (11,279千円)</p>		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<p>①コ・ワーケーションビレッジ構想を通して連携した事業者数 (+26人)</p> <p>②移住相談等を経て移住した世帯数 (+90世帯)</p> <p>③電子地域通貨の年間流通総額 (+837百万円)</p> <p>④ふるさと納税寄附額(企業版ふるさと納税を含む)(+252百万円)</p>		<p>関連URL</p> <p>(効果検証) https://town.biei.hokkaido.jp/administration/administration/machizukuri/machizukuri.html </p>

事業概要【通年の誘客と滞在型観光の推進により経済の好循環と雇用の創出を目指す美瑛魅力向上プロジェクト】

申請者	北海道美瑛町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	266,839千円（70,628千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的（効果）	通年の観光客の増加、滞在型観光の推進による宿泊者数の増加、それらの効果による地域経済の活性化や雇用の創出、転入者数の増加を目指す。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 従来の通過型観光を脱却し、滞在型観光を目指し、それに伴う地域経済の活性化を目指す。</p> <p>【主な経費】 ○滞在型観光の推進 ・観光周遊バスの運行 ※対象経費なし</p> <p>○冬期における観光客の呼び込み、白金エリアへの集客促進 ・人気観光スポットでのライトアップ事業（250,88千円）</p> <p>○オーバーツーリズム対策 ・青い池の駐車場管理（42,240千円） ・混雑状況可視化システムの管理（3,300千円）</p>		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<p>①地域における観光消費額（一人当たり単価）（+1,900円）</p> <p>②観光客入込客数（+900千人）</p> <p>③宿泊客延数（+80千人）</p> <p>④体験プログラム体験者延べ数（+750人）</p>	関連URL	<p>（効果検証）</p> <p>https://town.biei.hokkaido.jp/administration/administration/machizukuri/machizukuri.html</p>

事業概要【美瑛町東部地区コミュニティ施設整備事業】

申請者	北海道美瑛町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	488,960千円 (474,779千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	<p>・産地直売所、物販、レストラン等の機能をもった「道の駅」を新設し、魅力的な地場製品の販売や食の提供等を通して町内事業者の所得向上を図るとともに、町内観光資源のつなぎ手となり、観光消費額の増加など、市内各地へ経済波及効果をもたらす拠点施設とする。</p>						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 へき地の人口減少等の問題に伴う地域活動の衰退を防ぐため、集会場や高齢者福祉施設・保育所等を兼ね添えた複合施設の整備を行う。</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○美瑛町東部地区コミュニティ施設を整備 ・施設整備 474,779千円</p>					   	
地域の多様な 主体の参画	<p>運営協議会は、本施設の機能の一つでもある小規模多機能施設を主に運営する福祉事業所のほか、保育の支援団体、地域の直売所運営を行い農業者等住民で構成する。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最 終事業年度までの 「KPI増加分の累計」 の目標値	<p>①町内人口の社会増(転入者数－転出者数) (+0人) ②施設の利用者延べ数 (+7,345人) ③農産物販売数(購入者数) (+560人) ④カフェやイベントスペースを活用して地域が企画・運営するイベント等への地域住民の参加者延べ数 (+590人)</p>

事業概要【観光拠点施設の新設による観光産業と花によるまちづくりの持続的発展】

申請者	北海道中富良野町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	745,863千円 (577,861千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	観光分野
目的・効果	<p>観光拠点施設を新設し、以下項目別の目的に沿った事業を行い、観光産業と花のまちづくりの持続的発展を目指す。</p> <p>【1】観光人材の育成や観光協会の持続的発展を促す仕組みの構築 (1) 人材育成システムの構築、(2) 観光協会の持続的発展</p> <p>【2】50年以上続く、季節型・通過型観光からの脱却 (1) 季節型観光からの脱却、(2) 通過型観光からの脱却</p> <p>【3】農業や花等の町独自の産業と人を活かした体験・滞在型観光の推進 (1) インバウンド等の多様な観光ニーズへの対応、(2) 中富良野らしさの伝承</p>						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】 観光案内・特産品販売・飲食テナント・インバウンド対応等の機能を有した観光拠点施設を整備し、観光協会が運営や収益事業を展開することで、観光協会の持続的な発展と観光産業に関わる町内事業者への波及効果を促進する。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設でのソフト事業の企画やプロモーション（補助金） 3,500千円 ・閑散期イベントや町内デジタルマップの構築（委託料） 1,000千円 ・観光動向調査業務（委託料） 10,000千円 ・景観計画に基づく観光サイン等の整備業務（委託料） 5,000千円 ・インバウンド向け体験ツアー等の調査研究（委託料） 300千円 ・ランダーの植え替え体験などの花づくり事業 300千円 <p>【拠点整備事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点施設の新築工事（建築・電気・機械） 539,319千円 ・工事監理業務（委託料） 12,342千円 ・既存建物内残置物の除却（委託料）と解体工事 6,100千円 						
地域の多様な 主体の参画	<p>町及び観光協会が中心となり、商工会、地域商社、町指定金融機関及び連携企業などとの連携により、観光産業の振興を促進する。</p> <p>また、観光ボランティア、花づくりボランティア及び農業団体等との連携により持続的に運営できる仕組みや、義務教育学校「なかふらの学園」との連携により将来地元で働きかけづくりを行う取組みなどを行い、地域住民目線での意見を吸い上げ、事業内容への反映に取り組む。</p>					KPI <small>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</small>	<p>①町内での新規起業件数（+55件）</p> <p>②観光協会の正職員人数（+5人）</p> <p>③観光最盛期（6,7,8月）以外の観光入込客数（+22.67万人）</p> <p>④当該施設のテナント、キッチンカー、農産物等直売所での販売収入（+13百万円）</p> <p>⑤町内宿泊施設での訪日外国人宿泊客数（+7.64千人）</p> <p>⑥当該施設の年間利用者数（+9万人）</p>

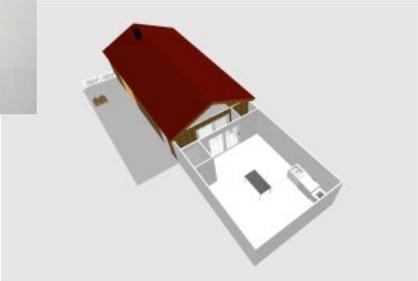
事業概要【北星山エリアの空間を活かしたウェルビーイング創出事業】

申請者	北海道中富良野町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	145,880千円 (35,600千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野 地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 重要な地域資源である北星山エリアの豊かな自然環境と空間を活かした通年型の観光地づくりを目指す ラベンダー観光以外で新たに滞在できる観光拠点として通過型観光の是正と、北星山エリアにおける観光消費額の増加に繋げ事業の継続性と自立性を図る。 					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 オーバーツーリズムな状態を緩和させるため、北星山エリアに目的別の「家」を整備することで、更なる交流人口・関係人口を創出することが期待できる。また、北星山エリアに非日常を感じることができる適度な空間と拠点を整備することで、夏期における観光客の分散を図り、通年を通じた誘客が期待できる。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○北星山エリア有効活用事業 ・構想づくり、モニターツアー、イベント等 19,000千円 ・なかふ産業体験プログラムメニュー設計等 800千円</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○森林公園内利用者用トイレ整備 ・施設整備 15,800千円</p>					
地域の多様な 主体の参画	<p>現在19名の地域おこし協力隊が活躍しており、SNS、テレワーク事業、観光推進、教育、福祉など、多様な分野との連携を図りながら協働で事業を推進する。また、地域活性化起業人とも連携し、域外からの視点を活かして北星山エリアにおける魅力向上につなげていく。</p>				<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①観光消費額 (+20,579千円) ②拠点利用者数 (+3,340人) ③なかふ産業体験プログラム数 (+8個) ④なかふ産業体験プログラム参加者数 (+220人) ⑤モビリティ利用者数 (+114人) ⑥森林公園町民利用者数 (+3,120人)

事業概要【南富良野町への高校生拠点施設増設事業】

申請者	北海道南富良野町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	132,000千円 (132,000千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 南富良野高校への遠方からの生徒の受け入れを推進し新たなひとの流れをつくり、地域に根ざした学習と地域住民との交流により、生徒の郷土愛や地域の知識を深め、南富良野町の次代を担う人材の育成を図る 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 南富良野高校での学校設定科目である「アウトドア」や、「カヌー部」・「カーリング部」などの特色ある取り組みなどから、遠方からの入学生の受け入れを推進し、地域に根ざした高校での学びにより郷土愛を育み、卒業後に転出や進学等しても町に戻り、南富良野町の次代を担う人材を育成を図るため、保護者と生活しなくても安心安全に生活をして学校に通える施設（学生寮）の増設を図る。</p> <p>【拠点施設整備事業経費】 学生寮増設（各部屋に風呂、トイレ、洗面所等完備、共同廊下） ・工事請負費（設計含む） 132,000千円</p>					 <p>既存学生寮</p>	
地域の多様な 主体の参画	<p>寮生が通う高校では、生徒会が主体となり地域の人達を対象にしたイベントの開催や、地域学習での報告を地域の人を招いて開催するなど、地域との交流を積極的に図るとともに、町、自治会、商工会などイベントにボランティア愛好会が参加するなど地域団体との連携を促進している。</p>					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①この施設を通じた学生が通う高校の卒業生に対する移住定住者（延べ人数）（+15人） ②この施設を通じた学生が通う高校の入学者（延べ人数）（+45人） ③この施設を通じた学生が通う高校の生徒の満足度（%）（+2.5%）

事業概要【村の木活用事業2.0】

申請者	北海道占冠村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	64,429千円 (64,089千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品であるメープルシロップの生産施設整備を行い、生産効率を高めることで新たな製品開発を行うとともにブランド化を図り、観光需要を喚起する。 ・メープル事業実施者が特産品開発の中心となり、地域の魅力づくりと情報発信を行っていくことで関係人口、交流人口の増加に繋げる。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 新規施設を整備することにより、生産効率を向上、働き方の見直しを行う。また、単なる特産品開発だけの施設だけではなく、観光体験ツアーなどの見学可能な新たな拠点として、地域の雇用拡大、交流人口の増加及び地域経済の活性化に繋げる。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○イベント、ツアー開発事業 ・特産品開発（補助金）170千円</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○生産拠点であるシュガーハウスを整備 ・施設整備 63,919千円</p>					 <p>占冠産メープルシロップ 「トペニワッカ」</p>  <p>生産拠点イメージ図</p>	
地域の多様な 主体の参画	<p>地元企業、商工会、観光協会が連携する中で、新たな製品の開発を行い、地域の付加価値を創造することによる販路拡大や交流人口の増加を目指す。</p> <p>また、教育委員会や社会福祉協議会を通して、幅広い年齢層をターゲットとしたイベントを開催し、地域産業の担い手として役割や地域資源の活用方法について理解を広める。</p>					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①メープルシロップの生産量増加による地域における雇用の拡大（+4人） ②生産拠点に係る観光入込数（体験ツアー、イベント参加者）（+300人） ③メープルシロップの生産量増加により売上販売額の増加（+365万円） ④支援事業により開発新規商品数（+8個）

事業概要【剣淵高等学校魅力化発信プロジェクト】

申請者	北海道剣淵町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	11,919千円 (3,841千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる都府県の枠を超え、自分の興味や個性にあった高校に進学する「地域みらい留学」制度を確立し、若者に選ばれる高等学校を目指す。 3年間で定員6割の入学者を確保し、卒業生の3割が町内へ就農・就業できる仕組みを構築することで、人口減少対策や関係人口増など新たな地方創生を図る。 						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】 道内外都市部（東京・大阪・札幌）からの生徒誘致のためプロモーション事業を積極的に講じ、生徒の確保・増加を図り、人口減少・担い手の確保につなげる。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学フェス参加（旅費） 1,010千円 パンフレット、ポスター等印刷製本（印刷製本費） 196千円 郵便等の通信運搬（通信運搬費） 50千円 地域みらい留学参画負担金（補助金、補助及び交付金） 1,595千円 動画製作、情報発信（委託料） 990千円 						
地域の多様な 主体の参画	<p>産業では、精通した知識を持つJA、商工会が参画することで卒業後の出口対策を確立する。また、金融機関が参画し、専門家が事業経費の執行状況や自立性に向けた助言を行う。</p> <p>産官学全労言、住民全般の全てが参画し、人口減少対策や関係人口増など、新たな地方創生を高等学校で取り組む。</p>					<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 入学者数 (+13人) ② 出展ブース来場者数 (+100人) ③ 町内への就農・就職者数 (+6人)

事業概要【住みたい、住み続けたいまちづくり事業】

申請者	北海道下川町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費（カッコ内はR7年度事業費）	426,271千円 (145,600千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	①しごとを創る→地域経済産業を振興し、雇用の維持、拡大、人材の確保、育成 ②まちを創る→新たな公共交通や空き家対策など、人にやさしい社会システムの構築 ③ひとを創る→地域独自の教育サービスの構築など未来人材の育成（＝地域教育力向上による若者定住促進） ④ひとや団体を“つなぎ”“ささえ”“つくる”中間支援機構の創設						
事業概要・主な経費	【事業概要】 既住民、移住検討者、若者、女性など多様な人々が下川町に「住みたい、住み続けたいまちづくり（定住促進）」を以下に観点から総合的に実施 ① しごとを創る（地域経済産業振興事業） ② まちを創る（人にやさしい社会システム構築事業） ③ ひとを創る（未来人材育成事業） ④ ひとや団体を“つなぎ”“ささえ”“つくる”中間支援機構の創設 【ソフト事業経費】 ① 農林商工業の経営基盤強化、人材の確保・育成【補助金・委託料】96,055千円 ② デマンド交通（予約型乗合タクシー、コミュニティバス）の経営強化【補助金】11,700千円 ③ 学校と地域内外との連携による子どもたちの可能性を拡げるための地域独自教育サービスの提供と子どもたちに適した教育環境整備【委託料等】17,355千円 ④ 中間支援機構の創設と運営支援【負担金・委託料】20,490千円					<p>既住民、移住者、若者、女性、高齢者など多様な人々が「住みたい、住み続けたいまち」</p> <p>しごとを創る 農林商工業の経営基盤強化、人材の確保・育成</p> <p>まちを創る デマンド交通など住み慣れた地域に住み続けられる社会システム構築</p> <p>ひとを創る 子どもの可能性を拡げる地域独自教育サービスの構築 = 地域の教育力を高め若者定住促進</p> <p>ひとや団体を“つなぎ”“ささえ”“つくる”中間支援機構</p>	
地域の多様な主体の参画	① しごとを創る：全産業関係者で組織する産業振興審議会（2025年度新設）において審議し実施 ② まちを創る：地域交通事業者と意見交換し実施 ③ ひとを創る：小中高校、教育委員会、NPO法人、地域内外の多様な関係者が連携、意見交換し実施					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	①農林商工業生産額（+7.41億円） ②空き家マッチング数（+3件） ③求人・就業人材マッチング数（+3件） ④新たな公共交通利用者数（+1500人） ⑤地域独自の教育サービスを受けた児童生徒（+55人）

※経費内訳はR7年度事業費

事業概要【アートを通じた地域活性化事業】

申請者	北海道音威子府村				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	2,100千円 (700千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野 まちづくり分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・おといねっぴ美術工芸高等学校（以下「おと高」）との連携を強化し卒業生やアーティストとの交流を通じて地域の活性化を図る。 ・アート活動を通じて地域住民と外部から来るアーティストとの交流を促進する。これにより新たな人間関係やネットワークが形成され村内での文化的な活性化が期待される。 					
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 ○おと高に入学・卒業された方を中心に公募し、アーティストは一定期間村内に滞在し、創作活動を行い、その成果を展示する。音威子府村を舞台に、多様な人々が集まり共創する場づくりを目指す。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○アーティスト招聘による地域交流促進事業 ・アーティスト報償費等（村補助金）700千円</p>					
地域の多様な 主体の参画	<p>招聘したアーティストによって、おと高での学生参加型授業を実施し、また、開催するワークショップやイベントを通して地域住民とも交流し、地域の活性化につなげる。</p>				KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①展示会来場者数（+300人） ②参加アーティスト数（+10人） ③メディア露出回数（+20回） ④地域住民との交流イベント数（+5回） ⑤地域住民の満足度調査（+3.5点） ⑥新規関係人口の増加数（+100人）
					※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	

事業概要【空き家とDXを活用した関係人口創出事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道中川町	初回採択回	令和6年度第1回募集	
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	49,993千円（17,089千円）	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野	
目的（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家とDXを活用した関係人口の創出と空き家の解消 ・既存住民と都市住民等の交流による地域コミュニティの構築 ・地域資源を活用した空き家改修による地域経済循環の創出 ・事業を通じた地域電子通貨の試験運用によるDX化の推進 			
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 若年層の移住希望者やアウトドア観光の振興により来町者は増加しつつあるが宿泊施設が少ないことから、空き家の流動化や活用を図り、多拠点生活プラットフォームサービス「ADDress」を提供する株式会社アドレスと包括連携協定を締結し本事業により解決を図る。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○拠点開発事業 ・拠点管理業務（委託料）2,098千円 ○魅力創出事業 ・DIYワークショップ開発業務（委託料）1,766千円 ○システム開発事業 ・システム開発業務（委託料）3,960千円 ○その他事業 ・事業成果まとめ、報告会開催経費 1,265千円 ○空き家改修事業 ・空き家のADDress住宅化（工事請負費）8,000千円 			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①地域へのUIターン数（+3人） ②本事業による関係人口の増加（+300人） ③ADDress住宅の登録件数（+5戸） ④街守の登録件数（+5人） 		関連URL	令和7年6月公表予定

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【奥道北中川町構想構築事業】

申請者	北海道中川町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	119,437千円 (72,307千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 北海道北部（道北）の中川町周辺地域を「奥道北」としてブランディングし、移住定住促進、新事業の創出、観光誘客の強化を図る。 長年放置されていた建設会社事務所（旧大永建設）に改修工事を行うことで、「奥道北中川町」の拠点施設としてリニューアルする。 既存住民と移住者等の交流促進を図り、若者や女性に移住・定住先として選ばれる地域づくりを行う。 						
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 交通の便や時間・経済距離含め大都市圏から遠方に位置している中川町の自然環境や地域資源の潜在力、魅力的な移住者の増加を図り、中川町周辺エリアを「奥道北」と銘打ち将来的に広域化を視野に入れたブランドの構築を実施する。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○奥道北中川町構想構築業務 ・ブランディング、WEB制作、展示会出店支援、拠点開発支援（委託） 20,576千円</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○旧大永建設を改修し、多目的なコミュニティスペース、コワーキングスペース、サテライトオフィス、観光案内所等を設置。 ・施設整備 51,731千円</p>					<p>奥道北中川町拠点</p>    <p>1F コミュニティスペース、シェアキッチン、観光案内所 2F サテライトオフィス、レンタルオフィス、コワーキングスペース、</p>	
地域の多様な主体の参画	<ul style="list-style-type: none"> 奥道北ブランディングやビジネスコンテストに大手企業含む様々な企業のブランディングやコンサルティングを手掛ける㈱スマイルズが参画予定 アウトドアコンテンツのプログラム開発に合同会社NNNが参画、施設管理は上川町でコミュニティビルディング等を手掛ける一社 YARDが参画 副業的職人集団の育成には、かご編み 糸を講師に、全国から受講生を募集する 包括連携協定を締結している日本大学文理学部、北海道大学研究林等との関係性やインターンシップの受入を行っている北海学園大学、マチヅクリ大学という地域実習を行っている北海商科大学との連携を活かし、新事業の創出や移住定住の促進を図る 					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①本事業による移住者数の増加（+25人/延べ） ②本事業による関係人口の増加（+6,000人/延べ） ③本事業により開発された観光プログラム（+10本） ④本事業により開発された商品数（+10件） ⑤本事業のメディア等掲載数（+30件） ⑥本事業による起業数（+5件）

※経費内訳はR7年度事業費

事業概要【フルーツの里ましけ 果樹園地帯活性化拠点整備事業】

申請者	北海道増毛町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	146,235千円 (146,235千円)
経費の種類	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	<p>・最北の果樹園地帯の中心にある旧果樹農家住宅を模様替し、果物、果樹園の情報発信と、果樹農業の担い手育成の機能をもった「フルーツの里ましけ ワークーションセンター」を整備することで、果樹園観光の魅力を入り口とした、未経験、短期でも果物収穫ワークーションに参加できる環境を整え、観光など年間30万人以上の交流人口を、町の産業に携わる関係人口に変えることにより果樹農家の担い手不足を解消する。</p>						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 果樹農業の担い手不足と情報発信力の課題を解消するため、旧農家住宅を改修し、就労レクチャー・テレワーク・情報発信機能を備えた果樹園観光と担い手確保対策の拠点となる「フルーツの里ましけ ワークーションセンター」を整備</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○「フルーツの里ましけ ワークーションセンター」整備 ・施設整備 131,276千円 ○拠点整備の支障となる建築物の撤去と駐車場の整備 ・支障建築物撤去 8,902千円 ・駐車場整備 941千円 ○拠点整備の効果を促進するための、情報発信、担い手確保にかかるソフトの整備 ・担い手確保事業 2,284千円 ・就労体験レクチャー・果樹園PR事業 2,832千円</p>					現状	
						模様替案	
地域の多様な 主体の参画	<p>商工会、漁業協同組合、農業協同組合、水産加工組合といった産業団体、中学校校長、小学校校長の教育関係者、金融からは信用金庫、労働団体は日本労働組合総連合会、そして、認定保育園、小学校、中学校のPTAに加え、公募からなる町民により構成される総合戦略町民会議の委員の意見を会議内で聴取している。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<p>①果実の農業産出額 (+3千万円)</p> <p>②「ふるさと短期就労事業」、「おてつたび」を活用した二拠点生活、短期・季節滞在での果樹農業就労数 (+22人)</p> <p>③ふるさと納税でのサクランボ出荷量 (+3ト)</p> <p>④新たに整備する拠点「フルーツの里ましけ ワークーションセンター」への来客者数 (+3万人)</p>

事業概要【おびら和牛の“和(ハーモニー)”と“輪(ネットワーク)”で広がる小平の未来と活力創造プロジェクトⅣ】

申請者	北海道小平町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	399,850千円 (399,850千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフ 整備事業	事業分野 農林水産分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 「おびら和牛繁殖センター」に育成・繁殖牛舎1棟を建設し、牛の飼養頭数の増に対応するとともに大ロットでの牛群改良の促進やデジタル化技術を生かした高品質・効率的な和牛生産を実現する。 畜産農家の労力負担の軽減と町内の牛の飼養頭数の拡大等を図る。 					
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】 「おびら和牛繁殖センター」に、人手をかけずに飼養管理を可能とする「自動給餌機」とICTを活用した「飼養管理システム」を備えた「育成・繁殖牛舎」を整備する。</p> <p>【拠点整備事業経費】 「おびら和牛繁殖センター」に育成・繁殖牛舎1棟を整備 ・施設整備 399,850千円</p>				 <p>過去に整備した施設内で飼養中の親子牛</p>	
地域の多様な 主体の参画	<p>町、農協、小平町和牛生産改良組合等も参画する、「運営会議」を四半期ごと、懸案事項があればその都度、繁殖センターの指定管理者が開催し施設運営に当たっての運営上の課題を協議し、地域が連携して適切かつ効果的な運営が進められるよう努める。町は関係機関やメーカーからの指導・助言、実証フィールドとして施設開放に努めるとともに、将来的には畜産試験場等研究機関との共同研究も検討していく。</p>				<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①町内畜産農家による子牛販売額の増 (+9,246.2万円)</p> <p>②施設内で一貫して育成される子牛(素牛)の増 (+75頭)</p> <p>③施設における飼養頭数の増 (+120頭)</p>

事業概要【とままえの未来を担うGX・BX・DXローカルベンチャー創出事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道苫前町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	39,336千円（16,445千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 新たな価値観で苫前町の地域資源を利活用したビジネスにチャレンジできる環境の整備により、苫前町発のローカルベンチャーを輩出し、これがさらに担い手を呼び込み、「育成し、輩出する」という地域に根付いたサーキュラーエコノミーを創出し、首都圏や都市部から新しい人材の流れを生み出す 地域の担い手や産業の裾野を広げ、既存産業の衰退や産業新陳代謝の低下といった負の連鎖から脱却する 		
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 官民連携による事業推進体制を整え、地域資源を利活用した新たなビジネスに挑戦できる環境の構築や、GX・BX・DXを推進するローカルベンチャーの創出と育成をエコシステム化し、一貫した支援体制を構築することで、持続的な人材獲得・育成と地域の発展を図る。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業推進体の運営及び民間主導体制への移行準備（委託料）2,684千円 ○人材獲得活動のメソッド化や人材発掘ネットワーク体制の構築（委託料）6,501千円 ○担い手人材の育成プログラムの確立とローカルベンチャー立ち上げ支援体制の構築（委託料）1,980千円 ○ローカルベンチャー輩出コミュニティの設置・運営（委託料）5,280千円 		
※経費内訳はR7年度事業費			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①苫前町の経済を牽引し、持続的な発展を担うローカルベンチャーの輩出件数（+9件） ②苫前町の施策の利用による苫前町への移住者数（+27人） ③ローカルベンチャー候補となる首都圏・都市部のポテンシャル人材の獲得数（+50人） ④ローカルベンチャーの担い手となる人材へのアプローチ数（+120人） 		
※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	関連URL	<p>（交付金の具体的使途・実施体制） http://www.town.tomamae.lg.jp （効果検証） 令和7年9月公表予定</p>	

事業概要【「ふるさと苫前」の関係人口創出・拡大による地場産品振興プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道苫前町	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	26,380千円（10,450千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・県人会や同窓会組織と連携し、「ふるさと苫前」にルーツのある人や苫前町に興味や関心のある人を起点として、新たな関係人口の掘り起こしや興味喚起を図る ・地域外からのまちづくりや地域課題への関わりを深め、地場産品の振興や新たな価値の創出を図る ・地域経済の活性化、関係人口・交流人口の増加に加え、移住・定住人口の増加につなげる 		
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 町外転出者や地場産品購入者など「ふるさと苫前」の関心層を対象に、「ふるさと苫前連合会（仮称）」への参加による地域コミュニティの活性化を図るとともに、地域の課題解決などへの参画機会を提供し、関係人口の創出・拡大と地場産品の振興を図る。</p> <p>【主な経費】 ○「ふるさと苫前連合会」の事務局運営及び民間主導体制への移行準備（委託料）3,050千円 ○地域内外の関心層が参加する課題整理や再編集・再発掘の実施と再編集された魅力資源のプロモーション施策の実施・検討（委託料）2,420千円 ○首都圏及び札幌市でのオフラインイベント、苫前町でのオフラインイベント、オンラインイベントの企画・開催（委託料）4,980千円</p>		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ① 苫前町の施策の利用による苫前町への移住者数（+4人） ② 「ふるさと苫前連合会」の会員数（+600人） ③ ふるさと納税の寄附者数（+300人） ④ ふるさと納税の寄附金額（+30,000千円） 		<p>関連URL</p> <p>(交付金の具体的用途・実施体制) http://www.town.tomamae.lg.jp (効果検証) 令和7年9月公表予定</p>

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【古丹別地区多世代交流・多機能型拠点施設整備事業】

申請者	北海道苫前町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	574,379千円 (45,586千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が日常的に利用できるスーパーマーケットを維持し、地域の高齢者が買い物難民となることを防ぐ。 ・公共交通の待合所、コミュニティスペースやシェアキッチン等を備え、地域住民の交流と地域コミュニティの醸成を図る。 ・観光情報の発信やイベントの開催等の実施により、関係人口・交流人口の創出・増加を図る。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 多世代交流を可能とし、多機能を有する「小さな拠点」施設を地域に整備する。施設では、キャッシュレス決済や地域限定商品券、スタンプラリーなどデジタル技術を活用してスーパーマーケットの集客力を高めるとともに、バスやデマンドタクシーの待合所や運行情報の提供で交通利用者の日常生活を支える。さらに、コミュニティスペースやシェアキッチンの機能も備え、地元商業高校生によるカフェの開催、地元商品の販売や観光情報の発信などを実施する。</p> <p>【拠点整備事業経費】 古丹別地区に多世代交流・多機能型の拠点施設を整備 <ul style="list-style-type: none"> ・施設建築工事基本・実施設計費 20,000千円 ・既存施設（車庫・倉庫）除却解体工事 25,586千円 </p>					 <p>古丹別地区多世代交流・多機能型拠点施設</p> <p>地域経済の活性化や関係人口・交流人口の増加につなげ、時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守り、人口減少を抑制する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小売店機能 ~地域住民の日常生活の維持、魅力的な店舗運営による集客力向上 ・待合所機能 ~デマンド交通の利便向上 ・コミュニティスペース・シェアキッチン機能 ~地域コミュニティの活性化 ・児童遊戯スペース機能 ~親子のくつろぎの場、子育て世代の交流促進 ・情報発信機能 ~地域PRによる観光振興、関係人口・交流人口の創出 	
地域の多様な 主体の参画	<p>指定管理者（産）は、系列企業等と連携し、多角的なノウハウを活かして運営を担い、地元町内会（住民全般）の意見等を反映しつつ、積極的なイベント開催等で誘客とコミュニティ形成を図る。さらに、地区内に所在する北海道苫前商業高等学校（学）がコミュニティスペースやシェアキッチンを活用し、カフェ運営や生徒の企画開発した商品を販売するなどの商業実習活動を行い、施設利用を促進する。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ①古丹別地区の人口減少率の抑制（+1.90%） ②コミュニティスペースの利用者数（+5,340人） ③コミュニティスペースにおけるイベント開催回数（+78回） ④小売店舗の来客者数（+34,000人）

事業概要【中頓別町女性・若者活躍推進事業 ～小さなまちの人口構造再構築を目指して～】

申請者	北海道中頓別町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	108,500千円 (37,000千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が進む中、将来の人口規模の変化に合わせて「人口構造の再構築」、「コミュニティの強化と醸成」を進め、小規模自治体でも持続可能な地域社会を作り上げることで、地域住民が幸福に生活することができる環境の維持を図る。 						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】 行政、民間の各取組において、仕事と子育ての調和を目指してワークライフバランスの推進、企業・事業所の環境整備・意識醸成等を行い、女性・若者が活躍できる環境を作る施策をビルトインしていくもの。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で取り組むワークライフバランス支援事業 意識・実態調査、普及啓発等（委託料）6,000千円 子育ての環境整備（子どもの教育・医療の充実等）事業 現況調査、事例調査等（委託料）5,500千円 オンラインシステムの運用管理（人件費等）3,500千円 職業選択の拡大（企業誘致・事業承継）支援事業 企業誘致、起業・事業承継、地元企業の強化（委託料）4,000千円 地域コミュニティの醸成支援業務 地元出身者へのヒアリング、イベント企画等（委託料）10,500千円 町民活動の支援、フォローアップ等（委託料）4,500千円 活動支援の拠点施設運用管理（人件費等）3,000千円 					<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 取組① 地域で取り組むワーク ライフバランス </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 取組② 育児の効率化・ 教育医療の充実 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 取組③ 職業選択枝の拡大 企業誘致・事業承継 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 取組④ 地域コミュニティの醸成 </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 中頓別町・地域事業者の魅力UP </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px; background-color: #f9cb9c;"> 出生率向上（自然増）＆社会増 人口構造の再構築 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px; background-color: #f9cb9c;"> 女性・若者が 活躍できる 地域を目指して </div>	
地域の多様な 主体の参画	<p>中頓別町商工会や中頓別町特定地域づくり事業協同組合と連携し、起業や事業承継、マルチワーカーの確保といった取組を進める。</p> <p>地域のまちづくり団体として、NPO中頓別町まちづくり協議会に参画いただくことで、イベント等の助言等を求める。</p> <p>札幌学院大学の有識者に参画いただき、地域コミュニティ形成のアドバイス、研究室テーマに沿った学生アイデア、話題提供などを行っていただく。</p>					KPI <small>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</small>	①新規起業数（+10件） ②子育てサポートの利用数（+50件） ③町外に住む町出身者との交流人数（+70人） ④女性・若者（20～49歳）のUIターン数（+12件）

事業概要【美幌みどりの村再整備による滞在型観光推進事業】

申請者	北海道美幌町				初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	1,244,738千円 (261,476千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野 観光分野
目的・効果	<p>本町における滞在型観光の拠点として、「美幌みどりの村」エリア一帯を再整備してエリアの価値向上に取り組み、地域資源を活用した新たな客層誘致を行うとともに、ワーケーションなど中長期的に滞在できる環境整備等の取組により、観光振興の強化による地域経済の好循環や地域産業の活性化へ繋げ、更なる観光誘客と交流人口、関係人口の増加を図る。</p>					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 新たな観光ニーズに合致した小規模グループ／家族層、また都市部からのワーケーション利用客をターゲットに美幌みどりの村一帯を滞在型観光拠点として以下の内容を整備し、地域における観光消費額の向上を図る。 オンラインツールを用いた予約システムにより混雑の緩和を図り、顧客の満足度向上させるとともに、オンラインチャットツールの導入により顧客のニーズに素早く対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランピングエリア整備 ・キャンプ場の再整備（オートサイトエリア整備、バンガロー改修等） ・グリーンビレッジ美幌の模様替え <p>【拠点整備事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物本体工事 建築実施設計業務 32,912千円、建築工事費 135,706千円 ・建築物と不可分な設備工事 インフラ整備 42,450千円 ・設備整備・用地造成 外構実施設計業務 37,535千円 工事請負費 12,873千円 					
地域の多様な 主体の参画	<p>包括連携協定を締結している大学から、大学が持つ知見や専門性など、多角的な視点から施設運営に係る助言をいただき、事業内容に反映する。 本施設の指定管理者には、町内事業者との連携によるイベントを開催してもらい、地域の活性化を図るとともに、本施設の魅力を高め、利用者の満足度を高めることで、観光の目的地化し、町内外からの誘客を図る。</p>				KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域における観光消費額（+102,883千円） ② 観光入込客数（+23,317人） ③ 美幌みどりの村一帯の宿泊者数（+4,007人） ④ 美幌みどりの村でのワーケーション利用件数（+12件）

事業概要【都市圏大学生によるひとづくり・まちづくり事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道津別町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	7,500千円 (2,500千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生と大学生が、イベント参加時や恒常的なSNS等で本事業の取り組みのPRを行うことで関係人口・交流人口の拡大を図る。 ・高大連携事業を通して、大学生と高校生相互にスキルアップを図り、次世代を担う人材育成を図る。 ・本事業を通して関わりの持った高校生と大学生が継続的に関係を持つことで、将来的なU I Jターン増加を図る。 		
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】</p> <p>大学生が定期的に来町し、町外者かつ若者目線で町の調査研究をおこない、その成果を政策提言として行政および町内企業に提案する。また、高大連携事業として、地元高校生は大学生の助言を受けながら町の現状や課題を調査し行政に政策提言を行うことで、自ら住んでいる地域を客観視する力やふるさとの未来について考える力を醸成させる。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外部人材招聘に係る来町経費 ・現地調査（高大連携事業含む）に係る経費 ・報告会に係る経費 計 1,900千円 ○高校生と大学生のマーケティング実践に係るイベント実施費 計 500千円 ○報告会に係る費用 ・SNS配信料など 100千円 		<p>都市圏大学生によるひとづくり・まちづくり</p> <p>大学生 → つべつ学への参加 (オンライン、来町) → 津別高校</p> <p>津別高校 → 大学構内での特産品のマーケティング → 行政</p> <p>行政 → 大学生・高校生の政策提言の実行</p> <p>政策提言 (from both sides) → 行政</p>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①地域への移住者数 (UIJターン数) (+13人) ② (仮称) つべつファン登録者数 (+70人) ③津別高校卒業生の地元就職率 (+7%) <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>		<p>関連URL</p> <p>(交付金の具体的用途・実施体制及び効果検証)</p> <p>https://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/choseijoho/chihososei/1702.html</p>

事業概要【木質バイオマス地域熱供給】

申請者	北海道津別町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	46,596千円 (46,596千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野 農林水産分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 町内の民間特別養護老人ホームおよびデイサービスセンターの移転新築計画があり、移転にあわせて他の民間既存福祉施設とともに木質バイオマスによる熱エネルギーを24時間供給し、その熱を暖房・給湯に利用してもらう「地域熱供給」を行う。そのため、町は新たに地域熱供給を行う「エネルギーセンター」を建設する。 地域熱供給のエネルギー源として利用する木質バイオマスは、地域で利用価値の低い林地残材を使用することで森林資源の有効活用につながり、林産業の雇用創出といった更なる振興のほか、福祉施設にとっては値上がり続ける化石燃料によるエネルギーを削減することにもつながり、脱炭素化・域外への資金流出削減を目指す。 					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 町は新たに地域熱供給を行う「エネルギーセンター」を建設し、特養等と周辺の既存施設へ熱導管を接続して熱供給を行うことで、資源・エネルギー・経済の域内循環を目指す。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エネルギーセンター基本・実施設計 ・事業費（委託料） 36,036千円 ○貯蔵棟実施設計 ・事業費（委託料） 8,063千円 ○木質バイオマス地域熱供給計画運用体制支援業務 ・事業費（委託料） 2,497千円 				<p>熱供給イメージ図</p>	
地域の多様な 主体の参画	<p>町内事業者や各種団体、研究機関等から、津別町木質バイオマス利用推進協議会の委員およびアドバイザーとして出席してもらい、研究項目や課題解決に向けて意見・アドバイスをもらう。また、熱供給利用福祉施設においては熱供給利用者側として課題等を述べてもらい、協議会において課題解決を図る。</p> <p>町内外のマスメディアを活用し、津別町の木質バイオマスに係る情報の発信を行う。</p> <p>一般町民向けの再エネ勉強会を開催し、町民意見の反映に取り組む。</p>				<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①域外への資金流出削減額 (▲181,178,677円) ②域内循環による効果 (+146,792,250円) ③CO2削減効果 (▲3,600t)

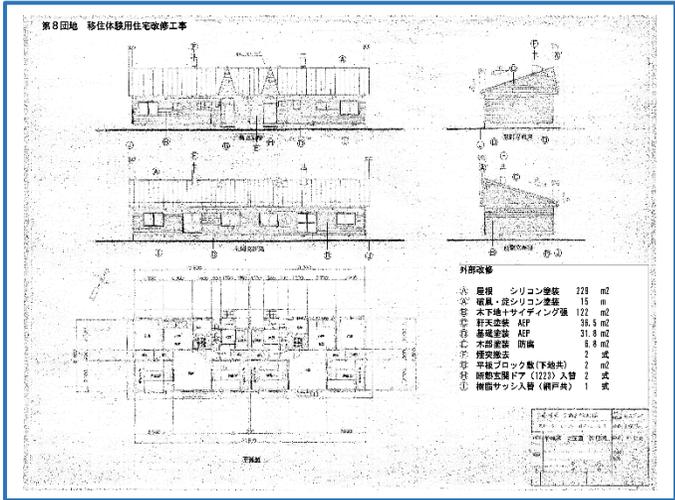
事業概要【関係人GO！SHARI推進事業】

申請者	北海道斜里町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	70,217千円 (21,739千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<p>・地域ブランディングを推進し、主に首都圏を中心に若者や女性に訴求したプロモーション及びコミュニケーションを展開することにより、地域の課題解決につながる関係人口創出を目指す。</p>						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 地域の課題解決につながる関係人口創出を目的として、主に首都圏を中心に若者や女性に訴求した地域ブランディングデザインを基軸としたプロモーション及び域内外の関係人口ネットワークを拡げることが重点化し、各拠点を軸にコミュニケーションを展開する。</p> <p>【ソフト事業経費】 ※主な経費</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレット印刷（需用費） 1,100千円 ブランドブック制作（委託料） 3,000千円 ブランドデザイン業務（委託料） 1,900千円 ブランドデザイン業務（使用料） 600千円 関係人口創出支援コーディネート（委託料） 9,768千円 関係人口創出拠点施設管理（委託料） 2,600千円 首都圏シェアオフィス賃借料（借上料） 900千円 まなび場実施（委託料） 1,871千円 						
地域の多様な 主体の参画	<p>一般社団法人や公益財団等とともに「共益」領域における役割分担の中で、行政だけでは解決しにくい課題に対して取り組みを行う。 移住者である地域おこし協力隊の意見を吸い上げ、事業内容への反映に取り組む。インフルエンサーのスキルを活用して、ビジュアルと文章で地域の価値を「ストーリー」として語っていく役割を担い、編集やデザイン力で共感を生む取り組みを行う。</p>					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①観光客入込数（+3万人） ②ブランディング関連SNS閲覧数（+41万ビュー/年） ③ブランディング認知度（インナー）（+0.8%） ④知床に1か月以上の長期滞在及び住んでみたい意向を示す20代30代の割合（+3.2%） ⑤知床でワーケーション、デュアルライフ、移住に関心のある20代30代の割合（+11.0%） ⑥ブランディング関連SNSフォロワー数（+8.5千フォロワー/年）

事業概要【みんなで創る二地域居住推進のまちづくり事業】

申請者	北海道小清水町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	134,800千円 (39,800千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフ 整備事業	事業分野 地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 親子で旅行しながら働ける環境や町の魅力あるコンテンツの提供に加え、地域住民との交流で“第2のふるさと”を目指す取り組みにより、二地域居住を推進していく。 人の流れをつくり交流することで住民の活力向上や町内事業者への経済波及に広げ相乗効果をもたらす。 					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 親子向けにワーケーション環境を整備し、町や地域がもつ魅力の体感や、地域住民等との交流をしながら、“第2のふるさと”と感じてもらい、気軽にできる短期体験型の二地域居住を推進していく。また、安価な住環境や子育て保育体制、価値のある親子時間、都会にない特別な体験、最大の魅力である大自然の中での田舎暮らしなどを提供し、子どもの適応能力やコミュニケーション能力の形成に繋げ、“第2のふるさと”として長期的な関係構築を図ることで町全体の地域活力を向上させる。</p> <p>【ソフト事業経費】 フェーズフリー概念（日常使っているものが非常時にも役に立つ考え方）を取り入れたイベント「フェーズフリーツアー」の開催と、ウェルネスプログラムの実施。二地域居住の利用促進に繋がられるように、双方コミュニケーションができるSNSを活用した関係人口との関係構築に向けて魅力発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントの企画運営など（補助金）24,100千円 ・ウェルネスプログラムの企画開催など（補助金）10,000千円 ・SNS運用費及び投稿制作費（委託料）3,300千円 					
地域の多様な 主体の参画	<p>観光協会や農業公社、事業者と協力連携しながら、来訪者や滞在者などを対象に、既存のコンテンツだけでなく新規コンテンツの開発及び提供に取り組むほか、各参加主体の知見や資源などを共有した魅力や情報発信を連携的に実施することにより人の呼び込みを目指す。</p>				<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①二地域居住を含むUIターンの人数（+20人） ②フェーズフリーキャンプ参加者数（+900人） ③特設HPアクセス数（+15,500件） ④SNSフォロワー数（+600人） ⑤移住コーディネーター等への相談件数（+75件）

事業概要【移住体験用住宅改修工事業】

申請者	北海道置戸町					初回採択回	令和7年度第1回募集																																								
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	30,000千円 (30,000千円)																																								
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野																																								
目的・効果	<p>・老朽化により空室となっている公営住宅（1棟2戸）を移住体験用住宅として改修し、本町との交流・関係人口の増加を図り、人口減少の抑制とともに、転入人口の増加につなげる。</p>																																														
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 老朽化により空室となっている公営住宅（1棟2戸）を移住体験用住宅として改修し、本町との交流・関係人口の増加を図り、人口減少の抑制とともに、転入人口の増加につなげる。</p> <p>【拠点整備事業経費】 ・建築物整備 30,000千円</p>					 <table border="1"> <caption>別添改修</caption> <tr><td>屋根</td><td>シリコン塗装</td><td>221</td><td>m²</td></tr> <tr><td>外</td><td>破損・剥離コンクリート</td><td>15</td><td>m</td></tr> <tr><td>窓</td><td>木下地+サイディング張</td><td>122</td><td>m²</td></tr> <tr><td>窓</td><td>軒天塗装 APF</td><td>36.5</td><td>m²</td></tr> <tr><td>窓</td><td>基礎塗装 APF</td><td>31.9</td><td>m²</td></tr> <tr><td>窓</td><td>木部塗装</td><td>8.8</td><td>m²</td></tr> <tr><td>窓</td><td>煙突撤去</td><td>2</td><td>式</td></tr> <tr><td>窓</td><td>屋根ブロック敷(下駄木)</td><td>2</td><td>m²</td></tr> <tr><td>窓</td><td>断熱玄関ドア(122)入替</td><td>2</td><td>式</td></tr> <tr><td>窓</td><td>樹脂サッシ入替(両戸共)</td><td>1</td><td>式</td></tr> </table>		屋根	シリコン塗装	221	m ²	外	破損・剥離コンクリート	15	m	窓	木下地+サイディング張	122	m ²	窓	軒天塗装 APF	36.5	m ²	窓	基礎塗装 APF	31.9	m ²	窓	木部塗装	8.8	m ²	窓	煙突撤去	2	式	窓	屋根ブロック敷(下駄木)	2	m ²	窓	断熱玄関ドア(122)入替	2	式	窓	樹脂サッシ入替(両戸共)	1	式
屋根	シリコン塗装	221	m ²																																												
外	破損・剥離コンクリート	15	m																																												
窓	木下地+サイディング張	122	m ²																																												
窓	軒天塗装 APF	36.5	m ²																																												
窓	基礎塗装 APF	31.9	m ²																																												
窓	木部塗装	8.8	m ²																																												
窓	煙突撤去	2	式																																												
窓	屋根ブロック敷(下駄木)	2	m ²																																												
窓	断熱玄関ドア(122)入替	2	式																																												
窓	樹脂サッシ入替(両戸共)	1	式																																												
地域の多様な 主体の参画	<p>移住体験用住宅の利用を契機に移住相談があった場合に、各学校や認定こども園、町内事業者との連携をする中で、ニーズの把握に努め、移住相談にタイムリーに対応できるように取り組む。</p> <p>また、自治会や近隣住民に対して、移住体験用住宅を活用した移住促進施策の理解をしてもらうとともに、改善点等を情報交換しながら、移住促進施策の浸透を図っていく。</p>					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①移住体験住宅が契機となった置戸町への移住者数 (+42人) ②移住体験住宅が契機となった置戸町の交流人口数 (+720人) ③移住体験住宅が契機となった置戸町へのふるさと納税額 (+1,000千円)</p>																																								

事業概要【遠軽高等学校生徒用下宿施設整備事業】

申請者	北海道遠軽町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	172,681千円 (172,681千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフ 整備事業	事業分野 地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 遠軽高等学校生徒用下宿施設を整備し、地域の教育環境の維持を図る。 若者に選ばれる魅力ある高校づくりを進め、地域への人の流れをつくる。 					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 遠軽高等学校に北海道各地から継続的・安定的に生徒を受け入れる体制を整備するため、下宿施設を整備する。このことにより、地域への人の流れを創出すること、地域の教育環境・子育て環境を維持し、遠軽町周辺における、一定程度の選択肢を持てる高等学校を整え、定住者が安心して子どもを育てられる地域を確保する。また、本事業により創出された人の流れを活用し、若者の地元定着を図る。</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○遠軽高等学校生徒用下宿を整備 ・収容定員20名（4人1部屋） ・木造2階建て延べ床面積356.90㎡ ・施設整備 172,681千円 （建築164,846千円、備品購入7,835千円）</p>				<p>整備イメージ</p> 	
地域の多様な 主体の参画	<p>遠軽町は移住促進のため、下宿代の助成や下宿施設整備などに対する支援、また、関係者による連携会議を主宰し、連絡調整を図る。</p> <p>遠軽町教育委員会は町と連携し、町内中学校と高校の連携を深めるとともに、遠軽高等学校の生徒募集、学習環境改善などに対し支援を行う。</p> <p>遠軽高等学校は、積極的な生徒募集、学校運営の魅力化、地域と連携した教育の推進などを担う。</p> <p>北海道遠軽高等学校下宿を支援する会は、町民有志による遠軽高等学校生徒のための下宿運営を目的とする団体であり、町内企業や金融機関の代表者などで構成している。今後も高等学校、町等と連携し下宿生が安心して学校生活を送れるための環境を整備する。</p>				<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>① 下宿生が高等学校卒業後に町内に定着した人数（延べ）（+5人） ② 町外からの北海道遠軽高等学校入学者数（延べ）（+200人） ③ 合同企業説明会に参加した遠軽高等学校生徒数（+10人）</p>

事業概要【eスポーツを通じた活気ある湧別まちづくり事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道湧別町	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	19,608千円（10,472千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	様々な年代や思考、地域と人々を結びつけるジェンダーに囚われないツールとしてeスポーツを活用し、その垣根を取り払い、楽しみながら町民みんながつながりやすい環境を創出し、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる環境とデジタル技術の活用により都市にはない地方の魅力を発揮していく。		
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 様々な年代や思考、地域と人々を結びつけるジェンダーに囚われないツールとしてeスポーツを活用し、楽しみながら町民みんながつながりやすい環境を創出することで、生きがいを感じ元気な人・地域の輪を広げるとともに、新たな価値観や新たなサービスや産業創設の期待感を醸成し、都市部の人材や若者を呼び込むことで「町民みんなが未来に希望が持てる湧別町」の創造の実現を目指す。</p> <p>【主な経費】 町内イベント時に体験ブースを設置し、理解醸成を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組PR、体験会実施（委託料）1,237千円 eスポーツによる高齢者の心身の健康増進、認知機能の強化や生きがいづくり ・高齢者ゲーミングレクリエーション開催（委託料）1,716千円 外部からのプログラミング指導により興味関心をもつ小中学生の掘り起こし ・デジタル教育ワークショップ開催（委託料）1,722千円 全国から参加者を募り大会を開催、オンラインで発信し町内外に対する魅力発信につなげる ・全国大会イベント開催（委託料）5,797千円 		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタル教育ワークショップ参加者数（+90人） ②町内のeスポーツサークル設立（+1団体） ③高齢者ゲーミングレクリエーション参加者数（+200人） ④全国大会イベント開催のオンライン発信による視聴者数（+3,000人） 	関連URL	<p>（交付金の具体的使途・実施体制）</p> <p>https://www.town.yubetsu.lg.jp/administration/town/detail.html?content=1224</p> <p>（効果検証） 調整中</p>

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【森林×バイオマス×教育 地域の持続可能性向上プロジェクト】

申請者	北海道湧別町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	72,000千円 (22,000千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	農林水産分野

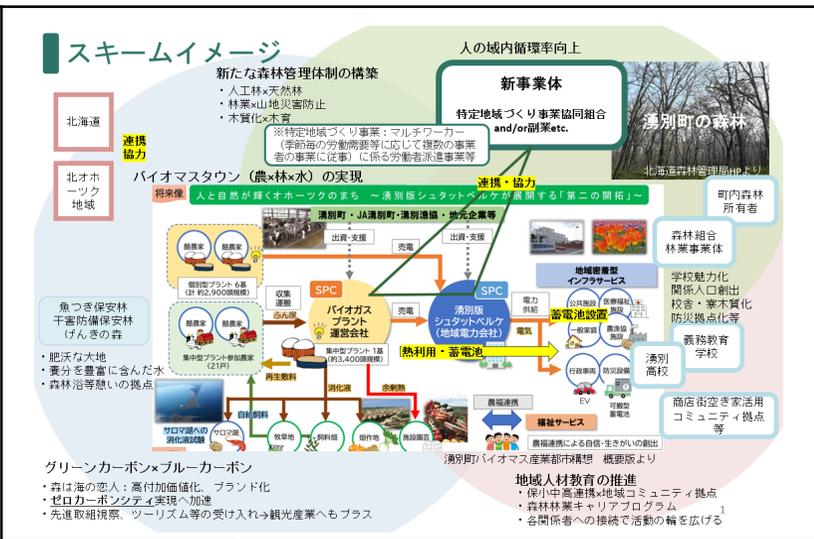
目的・効果

本町の有する地方創生の実現における構造的な課題の解決に向け、多角的なアプローチをするための地域商社設立を目指す。既存の農・林・水・教育・観光・移住定住施策等の取り組みと有機的に連携させ、豊かな一次産業を支える森林資源の適切な管理活用により、地域経済の活性化や地域の持続可能性向上に寄与、「地域の人事部・広報部」としての役割も果たし、本町の取り組みを町内外に広くPRする。

事業概要・主な経費
※経費内訳はR7年度事業費

【事業概要】
初年度は、町内外の森林業を中心とした産業・教育の実態把握及び新しい森林管理体制の構築のための基礎調査を行い包括的な実現可能性調査を実施する。知見・実績のある外部の民間企業を活用し、本町の森林管理、第一次～第三次産業の各関係事業者及び地域のインフラ・流通・教育分野での取組事例調査により、現況の把握を行い、地域商社設立にに向け協議調整を進める。

【主な経費】
実現可能性を探るため町内及び北オホーツク地域実態調査、町内及び北オホーツク地域内の地域人材教育の取り組み事例の把握・協議・調整に係る業務委託料 22,000千円



地域の多様な主体の参画

森林を起点として、多様な産業との交わりや人材育成等を推進するため、町内の産業に関わる農林水産団体での連携する。
また、地域の森林室や道立高校、町立学校との連携により木育や地域学習を通じた地域全体での保小中高連携を目指す。

KPI
※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

- ①本事業実施に伴う関係人口・移住者数 (+10人)
- ②本事業実施に伴う隣接市町を含めた林業・木材関係事業者への新規就業者数 (副業人材を含む) (+5人)
- ③本事業実施に伴う町産木材の町内での使用量 (+3m³)
- ④本事業実施に伴う林地残材等の利用量 (+300 t)
- ⑤本事業実施に係るイベント・地域人材教育参加人数、イベント等への参加レポート数 (興味関心の高い方) (+60人)
- ⑥本町公式HPの訪問回数 (1か月平均) (+2,000回)

事業概要【道の駅そうべつ情報館アイ機能向上事業】

申請者	北海道壮瞥町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	160,220千円 (157,550千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	✓	事業分野 観光分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅をリニューアルし、特産品の開発や積極的な情報発信を進めることにより、観光消費額の増加を図る。 基幹産業である農業の収益力を高めることにより、1次産業従事者の所得向上と担い手確保を目指す。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 道の駅の改修による来訪者の増加及び雇用の創出を図り、まちの魅力向上や地域産業の強化に寄与する。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特産品販路拡大プロモーション <ul style="list-style-type: none"> ・特産品開発（補助金）1,350千円 <p>【拠点整備事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道の駅に加工所及び来客者スペースを整備 <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備 60,500千円 ○喫茶コーナーのリニューアル、レジ機能の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・備品購入費 5,000千円 ○新商品開発・研究・販路拡大を目指す事業者への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・特産品開発、農産物物販イベント 2,700千円 <p>【インフラ整備事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来町者の増加及び機能拡充に向けたインフラ整備 <ul style="list-style-type: none"> ・設計工事費 68,000千円 					<p>道の駅「^{じょうほうかん}そうべつ情報館(アイ)」【単独型】</p> <p>《平面図》 ※地方創生拠点整備計画箇所</p>	
	地域の多様な 主体の参画	<p>道の駅が6次産業としての拠点となるよう、道の駅の指定管理者をはじめとする管理・運営により持続可能な地域農業の推進に取り組む。</p> <p>地域おこし協力隊と協働し、施設の交流人口の増加、地域の新たな魅力を発信する。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【人と森林生態系との共存による産業創出と文化形成に向けた森の拠点施設整備事業】

申請者	北海道厚真町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	129,206千円 (11,506千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野 観光分野
目的・効果	建築物や人工的なものが現状でほぼない約280ha（明治神宮の4倍）の町有林内に拠点となる施設を整備し、町民及び地域外の人材を呼び込み、森林と関わることで豊かさを創出する文化の創造と、森の中での新規事業を創出することで、森林との共存を基本とした地域経済の持続的な成長を図る。					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 戦略的に森林整備やイベントを継続して実施することで、楽しみながら居心地の良い森をつくり、その過程を経てコミュニティと文化を醸成することで、外部人材や新たな産業を創出するための基盤を構築する。</p> <p>【ソフト事業】 ○森林を活用することによるコミュニティ形成 ・事業委託 2,200千円</p> <p>【拠点整備事業経費】 ○環境保全林センターハウスを整備 ・施設整備 9,306千円</p>					
地域の多様な 主体の参画	<p>管理法人が施設周辺の280haの森林の管理計画作成と地域住民及び域外利用者呼び込むイベント開催や自主事業を実施し、新規事業者の誘致を行う。町は管理法人に事業を発注し、管理法人の活動内容を確認する。森林を適正に管理するため大学に森林生態系の状況把握のための調査項目の設定してもらい、必要に応じて調査指導、調査結果の解析に基づいた森林の利用計画への改善点の指摘を受ける</p>				<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①森林で実施される事業の売上額（木材の売上、イベント、宿泊費等）（+8,000千円） ②森林を活用した新規事業数（+3件） ③森林の来訪者数（+3500人） ④持ち込み企画でのイベント開催数（+5件） ⑤町内外企業の経営層の来訪者数（+18人）</p>

事業概要【関係人口の拡大による地域産業活性化プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道安平町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	35,586千円 (11,924千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	観光施策として交流人口や関係人口、リピーター層の増加を果たしながら、その来訪層を町内での起業や事業継承に誘い、商工分野の課題である商店街の活性化を目指していく。		
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ブランディングとご当地商品の開発支援 「作りたいモノ」から「売れるモノ」へ開発者の意識を転換させるセミナーを実施し、開発者のスキルアップを図り、開発商品のヒット率を高める。 ・地域ブランド構築事業（委託料）5,412千円 ・商品開発支援補助金（補助金：補助認定審査会で補助先を決定する、1/2もしくは10/10、地域資源を活かした商品開発への補助）4,520千円 ● 新たな創業や事業継承の支援 官民連携組織による創業支援窓口を強化し、観光施策で増加した来訪層を創業者側へ取り込み、外部参入支援する。また、事業継承を前年に整備したデータベースを活用し、具体的なマッチング事業を展開する。 ・創業塾支援事業（補助金：安平町商工会、定額補助、新規創業者への学習機会開設経費）342千円 ・事業継承バンクの運用、サポート事業（委託料）1,650千円 	<p>事業継承のサポート体制</p>	<p>起業家によるイベント事例</p>
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ① 安平町の観光客数（+9千人） ② 新規商品開発件数（+12件） ③ 新規起業件数（+6件） ④ 事業継承相談数（+6件） 	関連URL	https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/sogo-keikaku/second-plan/35

事業概要【デジタル人材の育成確保と企業誘致・就労創出を連動させたスマートワーク推進プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道安平町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	162,506千円（58,489千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	デジタル人材の育成の考えを踏まえながら、子育て中の女性の就労が可能となる働き方の導入等により、仕事と子育てを両立し、安心して出産し子育てできる就労環境を提供すること。また、若年層が働きたいと思える就労場所の確保など「子育て・教育」環境の魅力化と新しい働き方を提供できる本当の意味での移住定住につなげる。こうした取組みを通じて、デジタル技術を活用した便利で快適に暮らせるまちの実現を目指すもの。		
事業概要・ 主な経費	<p>女性や若年層の活躍をさらに推し進めるため、子育てと仕事を両立することができ安心して出産し子育てできる就労環境の提供、若年層が働きたいと思える就労場所の確保、これら取組みを安平町の新たなブランドとして定着させるためのブランディングと町内外へのプロモーションを推進していくために必要な取組みを、「あびらスマートワーク推進プロジェクト」として展開し、推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スマートワーク産業育成事業及び企業誘致推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・リスキリング事業（短期プログラム）（委託費）4,230千円 ・リスキリング事業（中期プログラム）（委託費）4,884千円 ・リスキリング事業（長期プログラム）（委託費）9,293千円 ・サテライトオフィス誘致・事業誘致推進事業（委託費）12,000千円 ●ブランディング推進事業及びシティプロモーション事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生推進シティプロモーション事業（委託費）12,984千円 ・安平町ブランディング事業（委託費）15,098千円 <p>※経費内訳はR7年度事業費</p>		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①地域へのUIターン数（+30人） ②デジタル人材の育成・確保数（+45人） ③企業進出相談件数（+45件） ④デジタル技術の町内事業所等への還元件数（+5件） <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>リスキリングとは</p> <p>労働者視点 デジタル化により新しい職業や仕事の進め方が大幅に変わる職業につくためのスキル習得</p> <p>企業の視点 デジタル技術を使いながら価値創造できるよう、多くの従業員の能力やスキルを再開発する</p> <p>OJT(On-the-Job Training)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内の「いまある」部署の「いまある」仕事を通じて、やり方を覚え、スキルを獲得してもらう教育 <p>リスキリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内に「いまない」仕事、「いま、できる人がいない」仕事のための新たなスキルを獲得すること <p>ツギノジダイ「リスキリングとは DX時代の人材育成になぜ必要？ OJTとの違いも」より引用 https://sembiz.asahi.com/article/13978145</p>	 <p>あびら町エリア放送</p> <p>あびらチャンネル ABIRA CHANNEL @ ABIRA</p> <p>公開版</p>
関連URL	https://www.town.abira.lg.jp/gyosei/sogo-keikaku/second-plan/35		

事業概要【全世代をつなぐ、生きがい支援 ～「こどもまんなか」でみんなにやさしいまちプロジェクト～】

申請者	北海道安平町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	35,423千円 (10,963千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 「地方創生2.0」に掲げる女性や若者にも選ばれる地域となるため、子どもから大人まですべての住民が「自ら考え、行動を起こす」、「こどもまんなか」な生涯活躍のまちづくりを実現する。 そのために、デジタルを活用した子どもの意見聴取等を進める中で、子どもからお年寄りまですべての世代の方が「つながる」ための支援を事業面、施設面双方から支援する。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【多世代のつながり創出に関する事業】 世代に関係なく生涯にわたって自分らしく生きることができよう伴走支援し、地域や人がつながり心豊かな地域を享受する。また、地域のだれもが利用できる学校内スペースで、地域の方が気軽に来もらえるための人を配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つながり（共遊）創出事業 ・共遊（きょうゆう）創出委託事業 2,900千円 ○交流拠点づくり事業 ・コンシェルジュ業務委託事業 4,396千円 ○PR事業 ・多世代誰もが利用できる居場所（学校）PR事業 1,406千円 <p>【こどもまんなか（子どもの意見聴取・尊重）に関する事業】 いつでもどこでも意見ができるような仕組みをデジタルで解決することで、子どものまちづくり参画や子どもの意見表明の場としての定着を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの意見聴取プラットフォームづくり事業 ・意見聴取プラットフォームづくり事業 2,261千円 					<p>全世代をつなぐ、生きがい支援 こどもまんなかでみんなにやさしいまちプロジェクト</p> <p>「こどもにやさしい」から「みんなにやさしいまち」へ 世代を超えた新たなつながりで、さらなる社会人口の増加を目指す。</p> <p>▼教育課程支援（あびら探求タイム） ▼交流拠点づくりや多世代による交流</p>  <p>こどもまんなかによる環境整備</p>	
地域の多様な 主体の参画	<p>「こどもまんなか」を意識しながら、産官学金労言及び公募住民等が参加する参画主体において、事業のPDCAサイクルの管理を行う。</p> <p>事業の実施については、受託事業者等と連携を図りながら、子どもと直接かわりあう業務を中心に担う中で、高齢者を含めた多世代の交流のきっかけづくりを狙っていく。</p>					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ①社会増減の均衡実現（転入者数-転出者数の直近5年平均）（+43人） ②70歳以上高齢者の転出者数抑制（転入者数-転出者数）（+17人） ③子育て世代の転入世帯数（+6世帯） ④早来学園地域開放スペース利用団体件数（+300件） ⑤つながり（共遊）事業により生まれた住民活動件数（+9件） ⑥子どもの意見聴取機会の実施件数（+9件）

事業概要【恐竜化石「カムイサウルス・ジャポニクス（むかわ竜）」を核とした持続可能な地域づくり事業】

※民間事業者の施設整備に対する間接補助

申請者	北海道むかわ町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	1,210,021千円 (955,475千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ	事業分野	観光分野
目的・効果	著しい過疎化や商業の衰退といった地域課題の解決と博物館のリニューアルによる人流の活性化を目指し、市街地を対象としたエリア再編を行い、過疎化が進む市街地の賑わいを取り戻し、住み続けられる持続可能なまちづくりにつなげていく。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>博物館は学術・教育的役割と観光的役割を併せ持つことから、展示物やその内容については幅広い層を対象とした工夫が必要となる。そのため、施設整備に際しては、博物館としての学術性を担保しつつ、一般来館者が理解と関心を深めるためにデジタル要素の活用も必要である。何度も来たくなる博物館づくりが、持続可能な施設運営の核となることから、その魅力化のためにデジタル技術の活用を行う。</p> <p>具体的には、カムイサウルスやティラノサウルス等の全身復元骨格レプリカの3Dデータ化により、博物館内でタブレット端末を用いたデータの拡大・縮小・回転を行い、様々な角度から恐竜の観察を可能にし、化石に対する理解の深化や博物館のコンテンツの魅力化を図る。また、3Dデータをインターネット上で公開し、世界中の化石ファンとのバーチャルツアーを可能とする。</p> <p>○施設整備等の内容（設備整備・用地造成を除く） 【建築本体工事】935,968千円</p> <p>○効果促進事業（ハード事業）の内容 【外構工事】19,507千円</p>		
KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<p>①地域における観光消費額（+65,517千円）</p> <p>②年間来館者数（+69,256人）</p> <p>③町内観光入込客数（+85,156人）</p> <p>④恐竜イベント等の実施回数（+5回）</p>		<p>関連URL</p> <p>www.town.mukawa.lg.jp</p>

事業概要【恐竜ブランドを活かした過疎地域のクリエイション（創生）プロジェクト】

申請者	北海道むかわ町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	64,989千円 (24,673千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	<p>・2003年にむかわ町で発掘された「むかわ竜」を多くの人に発信し、関係人口・交流人口の拡大につなげ、地域経済の活性化を図る。</p>		
事業概要・ 主な経費	<p>貴重な地域資源である「むかわ竜」を最大限に活かし、デジタル技術を活用したイベントや周遊コンテンツの創出等の取組を通じて本町の魅力を発信し、関係・関心人口の拡大を図り、過疎地域における持続可能な地域運営の確立を目指す。</p> <p>○むかわ町の地域資源としての恐竜・化石をPRするイベントを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催経費（委託料）17,273千円 ○関係・関心人口が来訪し、町内を周遊するきっかけとなるデジタル技術を活用した周遊コンテンツの実証実験 ・周遊コンテンツの実施経費（委託料）6,273千円 ・周遊コンテンツに使用する音声ガイド開発経費（委託料）1,127千円 		
KPI	<p>①「恐竜のまち」プロモーション事業において実施するイベントの参加者数（+900人）</p> <p>②周遊コンテンツの参加者数（+140人）</p>	関連URL	http://www.town.mukawa.lg.jp/dinosaur

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【穂別地区サポート交通実証運行支援事業】

申請者	北海道むかわ町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	2,513千円 (2,513千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事情や課題を把握している地域住民有志により設立されたNPO法人「ゆうほ」を中心に、穂別地区サポート交通の実証運行を実施することにより、地域の交通空白地を解消し、住民が安心して移動できる環境整備を図る。 ・バス路線の減便、縮小が進み、地域住民が直面する交通弱者の問題である地域内での買い物や医療機関への通院など、日常生活に必要な移動手段の不足に対する不安を解消する新たな交通サービスの導入。 						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>令和7年度に実証運行を行い、持続的な運営が出来るよう利用者ニーズの把握、料金設定や運行体制を構築し、令和8年度からの本格運行を目指すもの。</p> <p>○穂別地区サポート交通実証運行の概要 対象者：原則として穂別地区内居住者等（年齢制限なし） 運行日：週6日（月曜日から土曜日） 運行時間：9時から17時まで 運行地域：穂別地区内 予約方法：電話又は予約サイト</p> <p>【ソフト事業経費】 ○穂別地区サポート交通実証運行に係る費用助成 （当該事業に係る利用料及び賛助会費の収入を除く不足分の支援）・町助成金2,513千円</p>						
地域の多様な 主体の参画	産官学をはじめとした町内の様々な団体や企業と連携し、運行体制や料金体系について検討を行い、令和8年度以降の持続可能な事業運営のため、取組の改善に取り組む。					KPI <small>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</small>	①総人口（▲67人） ②利用者数（+30人） ③利用者の満足度（サービスに対する満足度） （+80%）

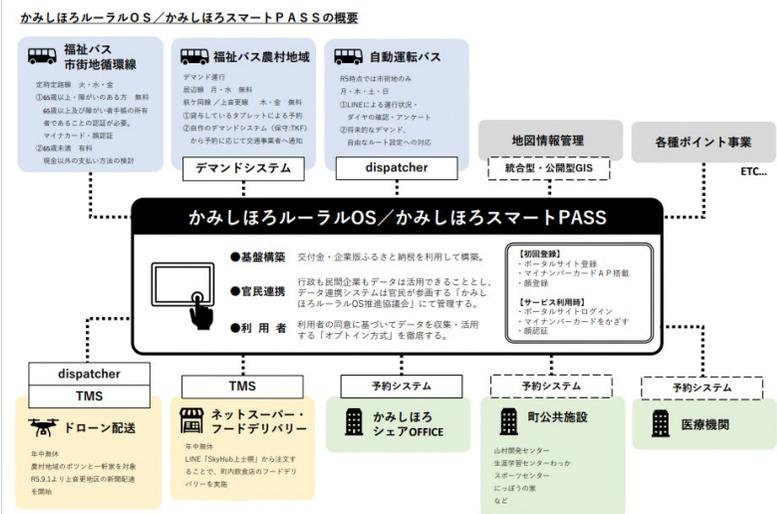
事業概要【「北海道鶴川高等学校」の魅力化を通じたむかわ町のブランディング及びタウンプロモーション】

申請者	北海道むかわ町				初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	20,000千円 (10,000千円)	
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 本町が持つ生活環境が充実している地域性、地域資源の豊富さなど、地域の魅力を発信することにより、「住みたくなる、育てたくなる、楽しめる」まちを目指し、さらにその先にある「住み続ける価値を生み出すまち」のブランドの確立に向け、子育て世代をターゲットに北海道鶴川高等学校の魅力化事業展開により、タウンプロモーション戦略の推進・実施を目指す。 プロのクリエイターと共にデジタルコンテンツを作成する、「特別カリキュラム」を鶴川高等学校に創設することにより、「先端教育に注力するまち」というブランディングと共に町外から子育て世代を呼び込む。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>北海道鶴川高等学校が取り組んでいる、生徒自らが地域課題の発見と解決方法を探る、探究学習「むかわ学」を発展・深化させ、授業では行うことの出来ない「前例のない革新的な特別クリエイティブ講座」に取り組み、地域課題解決を牽引する地方創生人材の育成を図る。</p> <p>また、楽しみながら成長する生徒の取り組みを映像化し、「むかわ学」の先端性を町内外の保護者・学生へ発信し、町の認知度向上とともに、入学者数の増加・子育て世代の増加を図る。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「特別クリエイティブ講座」の映像化（プロモーションムービー制作） ・プロデュース、演出費用等（委託料）7,307千円 ○P Rイベントの実施 ・イベント実施経費（委託料）2,693千円 						
地域の多様な 主体の参画	町内の高校に加え、地域資源や観光など、専門知識や技術、経験を有する民間企業・公益団体と連携し、専門的な知見等を反映し、取組の質の向上に取り組む。				KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ①北海道鶴川高等学校の入学者数（+9人） ②北海道鶴川高等学校のホームページアクセス数（+1,310,000回） ③子育て世帯（18歳未満の子どもがいる世帯）の増加数（+10世帯） 	

事業概要【かみしほろルールOS／かみしほろスマートPASS推進プロジェクト】

旧制度（推進）

<p>申請者</p>	<p>北海道上士幌町</p>	<p>初回採択回</p>	<p>令和5年度第1回募集</p>
<p>事業計画期間</p>	<p>R5-R7年度</p>	<p>期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)</p>	<p>160,000千円（30,000千円）</p>
<p>事業タイプ・類型</p>	<p>地方創生推進タイプ・横展開型</p>	<p>事業分野</p>	<p>地方への人の流れ分野</p>
<p>目的・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「かみしほろルールOS」を構築し、移動や物流をはじめとした域内サービスにおける多様な“ついで”需要の組み合わせを生み出し、地域全体のリソース効率化及びサービス最適化を図る。 利用者は域内サービスが集約された「かみしほろスマートPASS」を利用することで、既存・新規サービスの利便性の向上を図り、誰もが暮らしやすく、いきいきと生涯活躍できるスマートタウンを実現する。 		
<p>事業概要・ 主な経費</p> <p>※経費内訳はR7年度事業費</p>	<p>域内サービスが個別で蓄積しているデータをどのように活用するか、具体的なユースケースを想定した上でデータを取得・管理し、活用するためのデータ連携基盤「かみしほろルールOS」を構築するとともに、「かみしほろスマートPASS」に域内サービスを集約させ、利便性向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム管理経費（委託料） 5,500千円 ・外部システムとのAPI接続及び機能拡充経費（委託料） 14,500千円 ・既存事業との連携のための機能実装・拡充経費（委託） 10,000千円 		
<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①かみしほろルールOS／かみしほろスマートPASSを介したトランザクション数（+2,000件） ②かみしほろルールOS／かみしほろスマートPASSとの連携サービス数（+10件） ③かみしほろルールOS／かみしほろスマートPASSへの登録者（アクティブユーザー）数（+500人） ④高齢者のウェルビーイング（QoL）の数値（生活満足度調査の実施と満足度90%以上を目指す）（+15%） 		



関連URL

（交付金の具体的使途・実施体制・効果検証）
https://www.kamishihoro.jp/page/00000224#idx_00000962

事業概要【かみしほろワークスタイル／アーティスト・イン・レジデンス推進事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道上士幌町	初回採択回	令和6年度第1回募集	
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	87,007千円（26,993千円）	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野	
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 都市部からの人の流れを加速させ、関係人口を創出し、企業（起業）誘致と、将来的な移住を促すため、テレワーク・ワーケーションの受入体制を元地域おこし協力隊を中心に構築する。 ワークショップの開催により、これまで町と関わりを待たない層を呼び込む。 地域と都市部企業・個人が交流するきっかけをつくることで、新規ビジネス創出を図る。 PRイベントや助成により、テレワーク・ワーケーションによる来訪者を増加させる。 			
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 新たな層の関係人口を創出し、都市部との交流を加速させることで、地域経済の活性化・地域の担い手育成を進めていくため、都市部企業の受け入れ体制及びスキームを構築する。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <p>①アーティスト・イン・レジデンスによる地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップ開催経費（委託料）：4,000千円 展覧会開催（委託料）：3,500千円 1家庭1アートPJ（委託料）：2,500千円 遊休不動産利活用：3,728千円 <p>②町内生産者（事業者）と都市部企業・人材のマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> 逆参勤交代（委託料）：2,200千円 Farm to table 上士幌の実施（委託料）：2,000千円 副業兼業マッチング：2,000千円 <p>③テレワーク・ワーケーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> PR関連経費：3,065千円 こども園留学（委託料）：4,000千円 			
KPI	<p>①地域へのUIターン数（+15人）</p> <p>②アーティストinレジデンスによる作品数（+22点）</p> <p>③シェアオフィス利用者数（+200人）</p> <p>④都市部企業・個人と町内事業者のコラボプロジェクト（+5件）</p>		<p>関連URL</p> <p>（交付金の具体的使途・実施体制・効果検証） https://www.kamishihoro.jp/page/00000224#idx_00000962 </p>	

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【かみしほろ まち全体でSDGsプロジェクト】

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	109,600千円 (27,900千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野

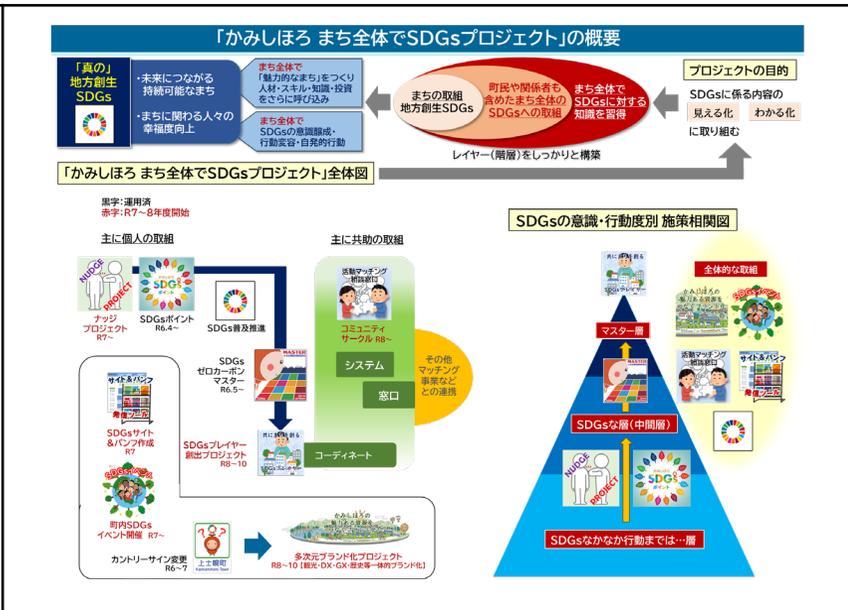
目的・効果

- SDGsの理解度に応じた複数の新たな普及啓発事業をパッケージ化して、一体的かつ様々な角度から切り込むことで、住民や関係者など「まち全体」がSDGsを「自分ごと」として捉え、実際の行動に移す機会が多く生み出され、「まち全体でSDGsの目標達成に向けて進む＝持続可能なまちの実現」につながる。
- 多様な地域のステークホルダーが参加し、役場だけではなく「まち全体」で魅力的で持続可能なまちづくりを行うことで、外部からの人材やスキル・知識・投資をさらに呼び込み、持続可能なまちの安定した土台になるとともに、町に関わる人々の幸福度の向上へとつながる。また、世界の共通目標でもあるSDGsそのものの達成にも貢献するものである。

【事業概要】
 〔上層：SDGsを軸としたまちの取組(施策)～中層：住民等も含む「まち全体」のSDGs達成への取組～下層：「まち全体」でSDGsの知識を習得〕のレイヤーをしっかりと構築して揺るぎないものとするため、各層に応じたSDGsの「見える化」「わかる化」が可能な複数施策をパッケージ化して実施し、効果的な普及推進を行う。

【ソフト事業経費】

- 「かみしほろナッジプロジェクト」の開催：3,300千円
 (意識醸成・行動変容を「そと後押し」する仕掛けの作成)
 ・ワークショップ開催、講師招聘、告知物製作・運営(委託)、印刷・消耗品
- 「かみしほろコミュニティサークル」の構築：12,300千円
 (町内活動のデータベース化、活動における相談・マッチングの場)
 ・町内活動聞き取り・データベース化、プラットフォーム構築(委託)、
 ワークショップ開催、講師招聘、印刷・消耗品
- SDGs総合サイト構築・パンフレット製作：7,000千円
 ・サイト制作(委託)、パンフ製作(委託)
- SDGsイベントの実施：5,300千円
 ・企画設計・運営(委託)



地域の多様な主体の参画

当該SDGsプロジェクトとの親和性が高い、本町の地域商社やまちづくり会社とも連携し、各事業における知見や情報の共有、提案、アイデアの創出を進める。また、両社には、積極的な事業実施・行動への参画も想定。以前より開催している多様な主体で構成する町内団体や町民が主役のワークショップを引き続き開催し、各々が持つ知見やアイデアを出し合うとともに、メンバーやプレイヤーとして積極的な参加を求めていく。

KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ①人口の社会増（社会減の抑制）（+39人） ②SDGs・ゼロカーボンマスター制度の取得者数（+213人） ③かみしほろコミュニティサークルの相談・マッチング件数（+80件） ④かみしほろコミュニティサークルの参加件数（人数）（+100人） ⑤SDGsポイント制度の参加者数（+1,000人） ⑥コミュニティづくりの拠点（hareta・ツガ）への集客数（+21,000人）
---	--

事業概要【地域サービス向上のための地理空間データ・かみしほろデジタルマップ推進プロジェクト】

申請者	北海道上士幌町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	150,000千円 (70,000千円)
経費の種類	ソフト 事業	✓	拠点整 備事業		インフラ 整備事業	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 官民のサービス提供レイヤーが接続する「かみしほろデジタルマップ基盤」を構築し、域内の位置・座標情報のフォーマットを定義するとともに、官民が持つオブジェクト位置データの蓄積を行うことで、各サービスユースケースにおいてニーズの高い位置情報をシームレスに流通させ、従来の官民サービスの拡張・効率化・コスト最適化を行い、域内のサービス担い手不足の課題を解決するとともに、これまでにない新たな価値の創出を目指す。 						
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度 事業費</small>	<p>【事業概要】 官民のサービス提供レイヤーが接続することができる「かみしほろデジタルマップ基盤」を構築し、官民の各サービスユースケースにおいてニーズの高い位置情報を統一フォーマットでシームレスに流通させ、従来の域内サービスの拡張・効率化・コスト最適化を行う。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かみしほろデジタルマップ基盤構築事業 <ul style="list-style-type: none"> ・基盤構築経費：35,200千円 ・外部サービスとのAPI連携構築経費：9,350千円 ・調査設計経費（実証調査含む）：15,450千円 ○サービス対象オブジェクトに対する地理的座標DB化事業 <ul style="list-style-type: none"> ・データ収集、クレンジング経費：2,750千円 ・データベース定義、構築、データ搭載経費：7,250千円 						
地域の多様な 主体の参画	<ul style="list-style-type: none"> ・民間サービス提供者（商工会事業者など） ・上士幌町役場 ・北海道内の大学・研究機関 ・金融機関・新聞社 ・住民サークルなど 					KPI <small>※カッコ内の数 値は最終事業 年度までの「KPI 増加分の累計」 の目標値</small>	<ul style="list-style-type: none"> ①上士幌町の人口減少割合の抑制度（改善度）（+0.5ポイント） ②かみしほろデジタルマップ基盤を介した位置・座標データのトランザクション数（+1,840件） ③かみしほろデジタルマップ基盤への位置・座標データ登録数（+5,900件） ④かみしほろデジタルマップ基盤の連携サービス数（+8件）

事業概要【農業体験×地域交流・定住移住二地域居住推進プロジェクト】

申請者	北海道上士幌町				初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	29,960千円 (11,720千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野 地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験住宅を整備することで、移住・二地域居住を推進し、都会から地方へ人の流れを創出する。 上士幌町農協や農家の方々と調整し、「農業ボランティアバイト×関係人口企画」といった新たな仕組みを開始し、若者を上士幌町へ移住・定住するきっかけを作り、移住者を増加させることで人口減少をくい止める。 上士幌町の特徴的な取り組みを首都圏で行われるイベントにて情報発信することで、関係人口の裾野を広げ、定住人口増加を目指す。 					
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】 本事業は、関係人口の拡大とともに、従来の定年後の移住や子育て世代の移住だけでなく、「若年」や「女性」などの新たなターゲット層に着目した取組と、移住環境の整備を行い、移住促進・二地域居住の仕組み構築に寄与する。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○農業ボランティアバイト企画募集事業 (しゃがいも等の収穫ボランティアバイトを町外の大学生・専門学生を中心に募集し、地域交流企画を実施する)</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷製本費：650千円 ・使用料：300千円 消耗品費：100千円 ・事務費：50千円 広告宣伝費：350千円 ・委託費（PR動画作成等）：1,470千円 <p>○生活体験住宅整備費用：5,200千円 (移住・二地域を検討される方向けの生活体験住宅を整備する。)</p> <p>○首都圏PR事業（首都圏で新たにイベントを開催・参画する） ・イベント開催経費（補助金）：3,600千円</p>					
地域の多様な 主体の参画	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会、各事業者等の商工関係者 ・全国の大学・専門学校等教育機関 ・金融機関・新聞社 ・上士幌町役場 ・労働団体 ・各種住民サークル・行政区など 				KPI <small>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</small>	<ul style="list-style-type: none"> ①上士幌町への移住・二地域居住者数（+17人） ②移住相談件数（+100件） ③生活体験体験モニター参加者数（+100人） ④シェアオフィス利用者数（+250人）

事業概要【鹿追町瓜幕自然体験留学センター新築工事事業】

申請者	北海道鹿追町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	398,630千円 (12,579千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<p>・瓜幕地域の「移住・定住」に大きく貢献してきた「自然体験留学センター」を新築し、自然体験留学制度を継続していくとともに「移住定住の入り口」として効果的に活用し、新たな関係人口や交流人口の拡大、創出を築き、地域の活性化を推進する。また、施設の完全ZEB化を実現し、環境に配慮した施設で子供たちへの環境への関心を深める。</p>						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 築50年が経過し老朽化した「自然体験留学センター」を新築し、地域の象徴的な取り組みである「留学制度」の継続及び推進を図るとともに、ZEB化により環境に配慮された施設として整備することで、脱炭素の取り組みの象徴的な建物とする。</p> <p>【拠点整備事業経費】 実施設計費 12,579千円</p>						
地域の多様な 主体の参画	<p>脱炭素化の推進に向けて産業分野及び官公庁、センターの運営について教育分野との連携を行いつつ、本町の脱炭素化事業の推進のために金融機関とも連携する。 留学生と地域との交流活動の推進のために地域住民の視点から出された意見を反映し、地域と連携し交流活動を促進する。</p>					<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①留学制度利用に関連した定住・移住者数 (+8人) ②自然体験事業の充実化による実施事業数の実施(+2事業) ③留学センターZEB化による自家消費率 (目標100%)</p>

事業概要【十勝清水町 地域DXベンチャー発掘・育成・創出事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道清水町	初回採択回	令和5年度第1回募集	
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	51,927千円（19,703千円）	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野	
目的（効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・街の将来を担う地域ベンチャーを発掘・育成・輩出する ・首都圏・都市部から地域ベンチャー候補となる人材の発掘・獲得する ・清水町でビジネスにチャレンジできるインキュベーションプログラムを実施する ・継続的に地域ベンチャーを育成・輩出し続けられるエコシステムを構築する 			
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 首都圏人材の発掘、獲得かつ育成し、伴走でベンチャー創出、ベンチャー候補のビジネスプランをブラッシュアップしながら確実に育成の自立自走に必要なベンチャーエコシステム（町がネットワークを作りながらベンチャーを生み出し発展していくシステム）の構築を進めることで、地域を活性化し、地方経済の創生を図る。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間主導による事業推進へのシフト（委託:2,816千円） 事業推進体の民間主導体制への移行 ・ベンチャー候補発掘・獲得（委託:9,627千円） 人材発掘・獲得のネットワーク構築 ・十勝清水ベンチャー育成プログラムの確立（委託:1,320千円） OFF-JT・OJTプログラムのブラッシュアップ ・十勝清水ベンチャー立ち上げ支援展開（委託:660千円） ビジネスプランの伴走支援 ・十勝清水ベンチャー創出エコシステム構築（委託:5,280千円） ベンチャーコミュニティの設置・運営。ビジネスマッチングの実施 			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①ベンチャー創業起業事業立ち上げによる移住・ベンチャーでの雇用や仕事に係る移住・事業推進の効果や波及等による移住の全体件数（+8件） ②清水町の経済を牽引し、持続的な発展を担う「十勝清水ベンチャー」の輩出件数（+4件） ③事業で実施する実践型のベンチャーインキュベーションプログラムの完了件数（+7件） ④十勝清水ベンチャーの担い手となるポテンシャルを有する首都圏・都市部人材の獲得件数（+12件） 		関連URL	https://start-up-shimizu.com/

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【芽室町元気な商店街づくりプロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道芽室町	初回採択回	令和5年度第1回募集	
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	57,716千円 (20,100千円)	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	ローカルイノベーション分野	
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内経済循環の促進と消費喚起による消費流入により商店街の活性化を図る ・起業支援による新たなお店の増加、既存のお店の稼ぐ力の向上により商店街の強化を図る ・デジタル技術を活用し商店街のDX化を推進する ・商店街を魅力的な場にする事で「ひと」の流れ、新しい「しごと」を生み出し、交流人口や定住人口の増加を図る 			
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 商店街を形成する個店の稼ぐ力の向上、新規起業・若者のチャレンジの増加により、地域内経済循環の推進と町内消費喚起を図る。</p> <p>【主な経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○デジタル技術を活用した消費喚起事業の実施 ・デジタル地域通貨を活用した消費喚起事業（補助）2,000千円 ○新たな起業への支援 ・起業者への支援（補助）6,000千円（2,000千円×3件） ○既存事業者の新分野進出・事業規模拡大への支援 ・新分野進出支援（補助）4,000千円（2,000千円×2件） ○商店街魅力発信事業（消費喚起イベント等） ・商店会が実施するスタンプラリー費用（補助）400千円 			
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①デジタル地域通貨を活用した消費喚起額（+100,000千円） ②本事業による起業支援数（起業セミナー受講者、チャレンジショップ利用者、実際の起業家）（+14人） ③新分野進出・事業規模拡大に取り組んだ事業者数（+10件） ④商店街魅力発信事業の参加者数（+400人） 		関連URL	https://www.memuro.net/administration/soshiki/seisaku/hyouka/gyousei-hyouka/index.html

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【「農業王国めむろ」ブランドを活用した稼ぐ観光振興プロジェクト】

旧制度（推進）

申請者	北海道芽室町	初回採択回	令和6年度第1回募集	
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	97,540千円 (39,200千円)	
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野	
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・本町の基幹産業である農業ブランド「農業王国めむろ」の地域ブランド化を進める ・2024年に予定されている日高山脈襟裳国立公園化を「新しい稼ぐ観光事業」で活用する ・観光拠点である新嵐山スカイパークにアウトドアを核とした事業を展開する ・地元住民向けの農業ツアー等により地元住民を巻き込んだ「農業王国めむろ」の地域ブランド化を進める 			
事業概要・ 主な経費 <small>※経費内訳はR7年度事業費</small>	<p>【事業概要】 本事業は本町の基幹産業である「農業王国めむろ」ブランドを稼ぐ観光事業に活用するとともに、日高山脈襟裳国立公園の国立公園化を観光コンテンツに活用し、新たな観光プログラムの構築、観光拠点施設の魅力向上、デジタル技術を活用したプロモーション、地元住民を巻き込んだ地域ブランド化を行い、新しい稼ぐ観光として町の稼ぐ力の向上を目指す。</p> <p>【事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「農業王国めむろ」の道内外へのプロモーション ・道外プロモーション 2,500千円 ・地域おこし協力隊が起業したNPOと連携したプロモーション 8,000千円 ○日高山脈襟裳国立公園化を見据えた観光プログラムの構築等 ・アウトドア事業強化 3,000千円 ・めむろまちの駅案内機能強化 1,000千円 ○国立公園化を見据えたアウトドアを核とした観光拠点に事業展開 ・基本計画策定委託 20,000千円 ○地元住民を巻き込んだ「農業王国めむろ」ブランドのPR ・子ども向け農業体験、住民向け農業関連ツアー 2,800千円 ・地元住民（子ども）による友好都市交流におけるPR 1,600千円 ○地元農産物を活用した新商品や新メニューを開発への支援 300千円 		 	
KPI <small>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</small>	<ul style="list-style-type: none"> ①地域における観光消費額（+1億円） ②「農業王国めむろ」ブランドを活用した観光プログラム・農業プログラム体験者数（+1,100人） ③道外プロモーション実施回数（+5回） ④新商品・新メニュー開発件数（+5件） 		関連URL https://www.memuro.net/administration/soshiki/seisaku/hyouka/gyousei-hyouka/index.html	

事業概要【持続可能な農村エコシステム構築事業】

旧制度（推進）

<p>申請者</p>	<p>北海道更別村</p>	<p>初回採択回</p>	<p>令和5年度第1回募集</p>
<p>事業計画期間</p>	<p>R5-R7年度</p>	<p>期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)</p>	<p>543,130千円（151,250千円）</p>
<p>事業タイプ・類型</p>	<p>地方創生推進タイプ・Society5.0型</p>	<p>事業分野</p>	<p>まちづくり分野</p>
<p>目的・効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農村エリア交通課題の解決 ・畜産業の課題の解決 ・高速安全な通信とデータ保管の完全性の課題の解決 		
<p>事業概要・ 主な経費</p> <p>※経費内訳はR7年度事業費</p>	<p>【事業概要】</p> <p>交通分野においては、農村エリアの交通に課題があるため、共助型地域交通物流システムを導入し、農業分野においては、国際標準での完全無人大型酪農地帯のISOBUS開発実証を行う。また、通信分野においては、本事業で扱うデータが膨大になることから、ブロックチェーンを活用した分散ストレージシステムにて確保し、通信基盤のメッシュ化も行う。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <p>①共助型地域交通物流システム・自動運転システム実証経費（レベル4相当、冬季実証含む） 25,000千円 ・すいすい村内移動移送サービス実証費（量子コンピュータ最適化） 11,950千円 ・AI配車システム最終テスト費用 8,000千円 ・ロボット配車実証運行費用 5,000千円 ・ドローン実証費用（R8.3実装を目指す） 5,000千円</p> <p>②国際競争拠点を形成する新たな農村エコシステムの構築・ISOBUS開発機器のプロダクトに向けた最終実証 67,100千円</p> <p>③ブロックチェーンを活用した分散ストレージシステム・分散ストレージ開発機器のセキュリティ等の最終実証 25,000千円</p> <p>④通信基盤のメッシュ化(衛星スターリンク)及びセキュア通信・基準局インフラ実証最終セッティング費用3,000千円・衛星通信使用料1,200千円</p>		
<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①共助型地域交通物流システム利用者の実数（+110%）</p> <p>②自動農機（無人ロボットトラクター・ドローン）の導入数（+36台）</p> <p>③離農者数の減少（▲3人）</p> <p>④企業誘致の増加（+3社）</p>		
	<p>関連URL</p>	<p>（交付金の具体的使途・実施体制・効果検証）</p> <p>https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/</p>	



<p>申請者</p>	<p>北海道更別村</p>	<p>初回採択回</p>	<p>令和6年度第1回募集</p>
<p>事業計画期間</p>	<p>R6-R8年度</p>	<p>期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)</p>	<p>96,900千円（32,366千円）</p>
<p>事業タイプ・類型</p>	<p>地方創生推進タイプ・横展開型</p>	<p>事業分野</p>	<p>まちづくり分野</p>
<p>目的・効果</p>	<p>目指す将来像＝更別村版共助社会構築事業 過去の更別村では皆が一つの「円」で共同意識が強く、苦勞も多い分だけ近隣の人々との密接なつながりがあった。しかし、現在ではライフスタイルの多様化により選択肢が増え、それぞれが小さな「円」（縁）に閉じるように生活をしている。高齢者をはじめとした住民が生活に不安を抱くことになってしまっているため、必要に応じてつながり合うことのできる適度な関係性を結び直し、「100歳までワクワク 世代を超えてみんなでつながり合う 幸せな地域」の実現を目指す。</p>		
<p>事業概要・ 主な経費</p> <p>※経費内訳はR7年度事業費</p>	<p>【事業概要】 多世代へのコミュニティナースの普及させるため、40歳から64歳の年齢層も対象とする。また、多世代交流が可能となるイベントや講座、ワークショップ等を通じて、多世代交流事業の確立を行い社会的つながりを広げていく。さらには、他地域からの研修を受け入れ、関係人口を増やしていく。</p> <p>【ソフト事業経費】 コミュニティナース普及・定着活動委託費：25,526千円 株式会社CNCによる村民のウェルビーイングプランの実現等を通じて、村民の意識や行動変容を促し、多世代の村民コミュニティナースの発掘や村内活動への参画者を増やす</p> <p>多世代交流事業委託費：5,760千円 多世代交流の実証を通じて判明した課題やニーズを踏まえ、多世代交流事業の計画の立案、事業の立ち上げを行う。</p> <p>関係人口の増加事業委託費：1,080千円 北海道内外からのインターン生や視察等研修の受け入れ、道内外での講演の実施等を通じて、更別村の魅力、更別村の取り組みを周知、受け入れ、関係人口の増加を行う</p>		<p>過去の更別村</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・皆がひとつの「円」で共同意識 ・苦勞も多いが人々と密接な繋がり <p>現在の更別村</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・選択肢が増えそれぞれ好みの「円」に ・高齢者は生活に不安を抱えている <p>未来の更別村</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティナースとデジタルによりそれぞれの「円」を大切にしつつ必要に応じて繋がり生活の不安が解消 コミュニティナース
<p>KPI</p> <p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①地域の人口・世帯数（+9人） ②住民のウェルビーイングアンケートの「健康状態」の指標の増（+6ポイント） ③商店街でのウェルビーイングプランの実現数（+30件） ④村民コミュニティナースの登録者数（+135人）</p>		<p>関連URL</p> <p>(交付金の具体的使途・実施体制・効果検証) https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/</p>

事業概要【村内外から人の流れをつくる交流促進事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道更別村	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	49,600千円（18,700千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を中心にあらゆる世代の村内外の人々が『出会い』『交流』『居場所ができること』で人の流れの創出を目指す。 ・「村内外から人の流れをつくる出会いと交流事業」により特別な人間関係を結び交流を促進する。 ・「村内外から人の流れをつくるまちづくりエンターテインメント事業」により先進デジタル技術の活用を知見と出会いを創り起業・創業につなげる。 		
事業概要・ 主な経費	<p>【事業概要】 更別村内の若い世代を中心に、あらゆる世代の村内外の人々が『出会い』『交流』『居場所ができること』で、更別村への人の流れを創出するため、3つの取り組みを実施する。①更別村の特産品や、特色のある料理づくりやJA更別と実施する農業体験会を通じて出会いの場をつくるため、特別な人間関係の構築を行う。本事業を実施することで、日常的な付き合いや表面的な関係を超えた、深い信頼と強い絆で結ばれた関係を生む。②更別村内の既存ストックを活用し、村内で新たなことに取り組む人々を呼び込むため、既存ストックの利用方法の転換を行い魅力的な場所や交流機会の創出する。本村の公共施設には、「農村環境改善センター」や「ふるさと館」などがある。いずれの施設も利用率は限定的で、多様な利用はなされておらず、村民に多様な使い方による魅力があることを周知できていない。本事業では、このような魅力的な場の利用率を向上するために村内外の方に公共施設を活用した民間企業による収益事業を提供することで、村内外の方に村内の公共施設の魅力を示し、本事業で実施する事業以外の事業にも活用いただき公共施設の利用率を向上させる。③先進デジタル技術を持つ企業が提供するエンターテインメントを介して観光客を呼び込み関係人口を増やすため、先進デジタル技術を用いた新しい出会いの創出と知見の深化事業を行う。</p> <p>【ソフト事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■村内外から人の流れをつくる出会いと交流事業 <ul style="list-style-type: none"> ①更別村の特色のある料理づくりなどを通じた特別な人間関係の構築事業 ・双方で教え合い交流が生まれる料理イベント（教室・試食会・講座）の運用体制の確立・導入及びPRに関する費用：1,700千円 ・JAさらべつと取り組む更別村の特産品を使ったメニュー開発の運用体制の確立・導入及びPRに関する費用：1,700千円 ・FMラジオ局や道内雑誌や新聞を活用した更別村のPRとイベント周知に関する費用：1,300千円 ②更別の既存ストックの利用方法の転換を行い魅力的な場所や交流機会の創出事業 <ul style="list-style-type: none"> ・官民双方の村内施設や村内で提供するサービスの使用方法の宣材動画などの作成に関する費用：3,100千円 ・村内飲食店等へのSNSの使い方講座（対面orWEB）の運用体制の確立・導入及びPRに関する費用：1,900千円 ・リアルとオンラインで実施する村の未来を考えるデジタルスナックの運用体制の確立・導入及びPRに関する費用：1,700千円 ■村内外から人の流れをつくるまちづくりエンターテインメント事業 <ul style="list-style-type: none"> ③先進デジタル技術を用いたエンターテインメントを介した新しい出会いの創出と知見の深化事業 ・ゲームを通じて実施するドローンの紹介および体験会の運用体制の確立・導入及びPRに関する費用：3,600千円 ・更別村を象徴する風景とコラボしたVR美術館の運用体制の確立・導入及びPRに関する費用：3,700千円 		
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ①当事業の関係人口構築による新規移住者数（+9人） ②更別村の宿泊観光入込数（+33,133人） ③当事業による更別村の公共施設の施設予約件数（+90件） ④交流事業への村内外からの参加者数（+165人） 		<p>関連URL</p> <p>(交付金の具体的使途・実施体制・効果検証)</p> <p>https://www.sarabetsu.jp/gyosei/seisaku/sogo/supercity/</p>
※経費内訳はR7年度事業費	<p>※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>		

事業概要【食糧自給率6800%を向上させるバイオスティミュラント試作実証事業】

申請者	北海道更別村					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	33,000千円 (21,000千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	農林水産分野
目的・効果	利活用の汎用性が少なかったスイートコーンの加工品残渣を使い、高温対策タイプの『バイオスティミュラント』の試作実証事業を実施し、製品化して村内農家に普及することで、更別村産農産物を安定生産・供給維持することが出来るとともに、農家の農業所得の向上を図る。						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 地球温暖化による異常気象に対する農産物の安定生産を確保する為、高温・低温・乾燥等の気候変動対策及び資材高騰対策に資する機能を持ったバイオスティミュラントの開発に取り組む。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○地元企業であるJAさらべつと『バイオスティミュラント』を研究開発している株式会社AGRI SMILEが共同で高温・低温・乾燥等の気候変動対策及び資材高騰対策に資する機能を持った『バイオスティミュラント』を共同開発する経費の助成するもの ～ 21,000千円</p>					 <p>AGRI SMILE ラボ試験</p> <p>バイオスティミュラントを散布</p> <p>↓</p> <p>植物のストレスを緩和させ 植物の能力を最大限に引き出す</p> <p>↓</p> <p>生育・収量・品質 UP</p> <p>根張りが向上</p>	
地域の多様な 主体の参画	新バイオスティミュラントの研究開発として株式会社AGRI SMILEに、事業全体の運営管理として更別村農業協同組合（JA）に、実証圃場での生育調査及び第三者から見た新バイオスティミュラントの評価者として北海道（農業改良普及センター）に高校の実習圃場での生育調査及び第三者から見た新バイオスティミュラントの評価者として更別農業高校に、新バイオスティミュラントに対する金融機関から見た将来性と事業推進・継続に向けた妥当性の検証機関として帯広信用金庫に、新バイオスティミュラントに対する実証圃場の提供者として更別村農民連盟に参画いただく。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<p>①農業生産物（畑作4品）の過去15年出荷額からの増加額（+156,000千円）</p> <p>②高温・低温・乾燥等の気候変動対策及び資材高騰対策に資する機能を持った『バイオスティミュラント』の製造販売数量（+7,335本）</p> <p>③利用農家戸数（+45戸）</p>

事業概要【北海道スペースポート整備事業】

申請者	北海道大樹町				初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R7年度				期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	2,383,856千円 (200,000千円)
経費の種類	ソフト 事業		拠点整 備事業	✓	インフラ 整備事業	事業分野 ローカルイノベーション分野
目的・効果	世界中のロケット製造企業が人工衛星を搭載したロケットを打上げることができるロケット射場及びスペースプレーン実験機や小型ジェット機等が着陸できるよう滑走路を延伸することで、地域にロケット製造企業・小型人工衛星製造企業・ドローン等のロボット製造企業、衛星データ利用企業、宇宙用部品製造企業等の航空宇宙関連企業の集積を図り交流人口・経済効果の増加等につなげる。					
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>当町の地理的優位性を活かし、世界中のロケット製造企業が人工衛星を搭載したロケットを打上げることができるロケット射場及び組立棟等を整備する。 また、スペースプレーン実験機や小型ジェット機等が離着陸できるよう既存滑走路の延伸を行う。</p> <p>○施設整備等の内容 組立棟の設備工事等 200,000千円</p>					
地域の多様な 主体の参画	<p>大樹町が進める宇宙のまちづくりにおいては、産官学をはじめ様々な団体等と連携した取組を展開している。 北海道スペースポートを核とし様々な関連産業が集積する宇宙版シリコンバレーの形成という目標実現へ向け、多様な主体が参画・連携し取組を進めている。</p>				<p>KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値</p>	<p>①航空宇宙関連企業（ロケット製造企業、小型人工衛星製造企業、ドローン等のロボット製造企業、衛星データ利用企業、宇宙用部品製造企業等）の進出数（+30社） ②航空宇宙関連雇用（ロケット製造企業、小型人工衛星製造企業、ドローン等のロボット製造企業、衛星データ利用企業、宇宙用部品製造企業等の航空宇宙関連企業による雇用）創出数（+300人） ③本件施設の見学者・視察者等の数（+38,000人）</p>

事業概要【「ゼロから始める本別町・官民協働ローカルSDGs」の実現 官民連携プロジェクト推進事業】

申請者	北海道本別町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	224,674千円 (41,314千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業	事業分野	まちづくり分野

目的・効果

- ・商店街の空き店舗を利活用し、サブリース事業を実施することにより、中心市街地の活性化や新たな事業の創出を図る。
- ・地域産品をブランド化し、高付加価値化することで、地域内に還元される利益を増やし、経済の好循環を実現させる。
- ・本別公園に、SDGs 体験プログラムやオートキャンプ場等の新たなコンテンツを構築することで、新たな層の利用客を呼び込むことが可能となる。
- ・地域内で使える共通ポイント制度を構築することで、地域内における消費行動を促進し、地域経済の活性化を図る。
- ・取組について地域外にも広く発信することで、地域外や都市部の個人や企業による取組への参加と、連携体制の構築を図る。

事業概要・主な経費
※経費内訳はR7年度事業費

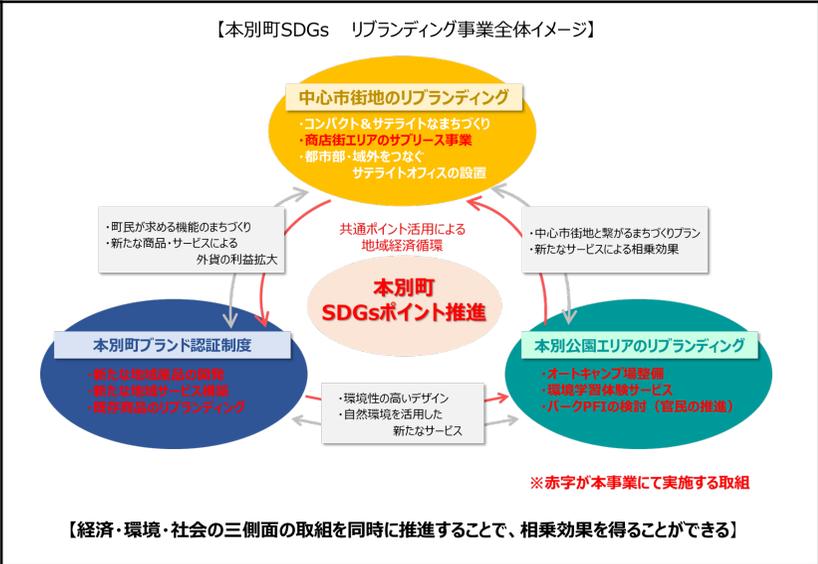
【事業概要】
「本別町SDGs 未来都市計画」の実現に向けて、経済面「本別町ブランド認証制度」、社会面「中心市街地のリブランディング」、環境面「本別公園のリブランディング」の三側面の取組に加えて、「本別町SDGs ポイント推進」を町民のインセンティブとなる取組として実施する。

【ソフト事業経費】

- 中心市街地のリブランディング事業 ・事業PR 1,000千円
- 本別町ブランド認証制度事業
- ・街全体のブランドデザインとマーケティング 1,000千円
- ・PR、ホームページ作成（ECサイト構築含む）2,000千円
- ・事務局運営 3,000千円 ・商品やサービス開発（補助金）5,000千円
- 本別公園のリブランディング事業
- ・環境学習体験サービスのパイロット事業実施、PR 500千円
- ・環境学習看板作成、設置、設置後の維持管理 5,000千円
- 本別町SDGsポイント推進事業 ・地域ワークショップ開催 1,000千円

【拠点整備事業経費】

- 「本別公園オートキャンプ場」の整備 ・設計費、解体工事費 22,814千円



地域の多様な主体の参画

「本別町SDGs・脱炭素推進協議会」において、具体的な事業について協議する。協議会には、様々な分野の地域事業者や団体等が参加しており、各々の知見やノウハウを活かして、取組に対する意見や提案を行う。また、協議会で検討された取組は、中間支援組織「（一社）andほんべつ」が、実行部隊となり具体的な推進を行う。加えて、サウンディング調査（令和7年1月実施）を通して、地域外事業者とも連携を取っている。

KPI
※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

- ① 域内消費の増加（+20億円）
- ② 官民による新たな事業の創出数（+6件）
- ③ 新たに利活用された空き店舗の数（+3件）
- ④ 高付加価値化した地域商品数（+20件）
- ⑤ 本別公園の利用者数の増加率（+15%）
- ⑥ 本別町SDGsポイント参加事業者数（+50事業者）

事業概要【官民連携手法による湯の川がつむぐカルデラの森の温泉街再生事業】

旧制度（推進）

申請者	北海道弟子屈町	初回採択回	令和5年度2回目
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	197,500千円 (67,500千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・団体旅行から個人旅行への旅行形態の変化、消費から体験へと変化した旅行の目的など、時代の変化に順応することができずに廃業や休業に追い込まれたホテル・旅館の残る川湯温泉街の再整備のための調査や計画策定ブランディングによる企業参入、人材確保の体制を構築する。 ・観光振興による質の高い雇用の実現と移住の促進を図り活力ある温泉街の再生を図る。 ・地域住民や地元企業等が主体となりまちづくり会社を組成し持続可能な温泉街再生を目指す。 		
事業概要・ 主な経費	<p>【森の温泉街の再生】 地域関係者との会議の継続、民間企業の参入を予定しているエリアの基本計画の策定や参入企業の募集、まちづくり会社の運営に向けた体制検討、温泉街のブランディング等を実施することで地域住民も豊かに住み続けられる森の温泉街の再生を目指す。</p> <p>【主な経費：ソフト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホテル誘致や環境整備に向けたガイドライン策定や、官民連携した「オープンデザイン会議（仮称）」の運営 15,500千円 ○新たな人材確保と組織体制構築事業 13,500千円 ○PPP手法による官民連携推進、民間企業誘致 15,500千円 ○川湯温泉に来る目的の造成やブランディング事業 13,000千円 <p>【主な経費：ハード事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○川湯横丁、泉源広場基本計画策定業務 10,000千円 	<p>川湯温泉街再生イメージ</p>  <p>イメージパース 全景-2</p>	
KPI	<p>①川湯地区における観光入込客数のうち宿泊者数の割合 (+6.5%)</p> <p>②川湯地区における外国人延宿泊数 (+2万3千人)</p> <p>③川湯地区における延べ宿泊者数 (+6万5千人)</p> <p>④弟子屈なび（観光ポータルサイト）閲覧数 (+25万PV)</p>	関連URL	<p>https://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/kurashi/machizukurijoho/kakushukeikaku/sougoukeikaku/dai6zisougoukeikaku/index.html</p>

※経費内訳はR7年度事業費

※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要【ゼロカーボンシティ推進事業】

申請者	北海道羅臼町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR7年度事業費)	20,000千円 (20,000千円)
経費の種類	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・羅臼町が持ち得る地熱資源を最大限に活用し、地熱発電の新規導入及び温泉熱の更なる利活用を推進することにより、地方起点で成長し、ヒト・モノ・金・情報の流れをつくるエコシステムを形成する。 ・基本構想の策定を通じて、地域新エネルギー供給会社等を新たに立ち上げることを目指す。 						
事業概要・ 主な経費 ※経費内訳はR7年度事業費	<p>【事業概要】 地熱発電の新規導入及び温泉熱の更なる利活用の推進のための基本構想を策定する。また、熱水供給施設の基本設計を策定する。これらの実施及び事業推進主体の組成のため、パートナー事業者、関連企業、地元関係者、有識者等による連絡会議を立ち上げるとともに、基本構想等の策定に必要な現地調査等を実施する。</p> <p>【ソフト事業経費】 ○基本構想、基本設計の策定事業 ・地域内外の関係企業等による連絡会議の運営、地熱発電の新規導入・温泉熱の更なる利活用に関する基本構想、熱水供給施設の基本設計策定経費（委託料）20,000千円</p>					<p>【地熱発電及び熱水供給のイメージ】</p>	
地域の多様な 主体の参画	事業の実質的な検討への参画及びフォローアップの場として、「ゼロカーボン推進協議会」を開催し、地域の多様な主体（漁業協同組合、商工会、観光協会、地域金融機関、町内会等）からの意見をもらうとともに、事業推進主体への参画等を検討する。					KPI ※カッコ内の数値は最終事業年度までの「KPI増加分の累計」の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ①地熱発電事業及び新たな熱水供給事業による売上額（+13,500万円/年） ②ゼロカーボン分野における事業推進主体の新規立ち上げ（+1件） ③ゼロカーボン分野における基本構想及び熱水供給施設の基本設計の策定（+1件）